

曹洞宗古規復古運動推進者

の著作と『禪規略述』の翻刻

川 口 高 風

曹洞宗古規復古運動者と推進者

江戸期の初め、隠元の渡来によって、黄檗宗は開かれたが、その影響は曹洞宗、臨済宗に大きな刺激となった。そして『黄檗清規』を模倣した新しい型の禪堂が、禪宗の中心道場となった。しかし、それに対して、曹洞宗では損翁宗益（一六四九—一七〇五）や面山瑞方（一六八九—一七六九）などにより、道元禪師の古規則への復古が主張された。その主張にもかかわらず、黄檗宗の影響は非常に強くて、容易に脱することができず、古規則復古を実際の行動として働きかけたのは、玄透即中（一七二九—一八〇七）であった。玄透は寛政七年（一七九五）四月、永平寺（福井県吉田郡永平寺町）へ晋住して盛んに古規則の遵行を叫び、幕府へも訴えた。しかし、玄透の主張は、永平寺晋住以後に新しく主張したのではなく、すでに円通寺（倉敷市玉島柏島）住持中に、円通寺の僧堂を改修し、『円通応用清規』を編集したのをはじめ、『校訂冠註永平元禪師清規』なども刊行しており、永平寺晋住以前からの思想である。そして表向きは、天明六年（一七八六）の災厄によって、荒廃した永平寺復興が幕府の命であるといわれるが、永平寺住持という立場から、権力的に全国末派寺院へ遵行させようとしたものと考えられよう。⁴⁾ するために、古規事件と

いわれる大乘寺（金沢市長坂町）との論争があり、大乘寺四十二世曇瑞禅苗の『古規回復拙考』や同寺四十三世無学愚禅の『規矩論』などによって、その推移が明らかになるのである。⁽³⁾

永平寺へ晋住した玄透は寛政七年八月、進んで幕府に書を呈して、古規則復古を嘆願し、僧堂や衆寮の改築を行なったが、玄透に随喜するものは多くなかったといわれる。⁽³⁾そこで、玄透の主張を推進するべく人物を得た機会は、享和二年（一八〇二）の道元禅師五五〇回忌であったと思われる。もちろん永平寺晋住以来、当時の碩徳と交流し、推進者を得たものと思われるが、詳しい人物の名は明らかにならない。しかも残念ながら、道元禅師五五〇回忌を中心とする資料も見出されないため、具体的な推進者の名を知ることではできないが、他の資料によれば、後堂には瑞岡珍牛（一七四三—一八二二）が請され、単頭に黄泉無著（一七七五—一八三八）が招聘されており、珍牛の弟子黙室良要（一七七五—一八三三）も珍牛に随侍して、永平寺へ上山したようである。⁽⁴⁾彼らによって、玄透の主張は一層推進されたのである。

ところで、玄透の古規則復古を推進した人は、珍牛、黙室、黄泉らのみではない。『正法眼蔵』開板に尽力した祖道穩達、大愚俊量も推進者であろう。また、玄透の弟子慧門禅智、復庵遵古をはじめとする門下は当然であろう。さらに、玄透が永平寺晋住後の龍穩寺（埼玉県入間郡越生町）四十八世についた面山の弟子天産慧苗も推進者と考えられる。つまり玄透門下、面山門下は、当然の推進者グループであった。しかし、このグループには、古規則復古を推進する著作がみあたらない。推進者として、理論的に裏付ける著作がないのである。

推進者の著作

書物を著わして、古規則復古を推進したグループは海外亮天門下の珍牛、寂室堅光（一七五三—一八三〇）、黙室とともに、府貫雄道門下に出た黄泉、証応道契（？—一八四六）ら、尾張を中心としたグループである。玄透が尾張

出身であるところから、尾張藩は玄透の主張をバックアップしたものと考えられ、尾張寺院に碩徳を招聘したものであろうが、その関係は別に考察したい。

そこで、ここに現在判明している彼らの著作を列挙してみると、

瑞岡珍牛

訂補建斯記図会二卷

文化三年七月、序・珍牛、凡例・黙室、白龍

永平高祖行状記二卷

文化五年冬、跋・珍牛、画図・法橋中和

息除賊難陀羅尼

年不詳、跋・珍牛

辟邪集⁽⁶⁾

年不詳

瑞岡珍牛語録

大正七年、岸沢惟安筆写、『続曹洞宗全書』語録三

寂室堅光

不能語履歷撰頌

文化四年七月、序・堅光

十善戒法語

文化十一年五月、文政元年八月、和泉屋庄次郎刊

十善戒鄙語

大正十五年十一月、九一堂叢書第二編

十善戒信受の人に示す法語

安政三年二月再刊、昭和四年三月、国文東方仏教叢書第二卷法語部下

西湖紀行

文化十一年五月

江戸吉祥寺僧堂扁額銘記

文化十四年四月

寿山清規

文化十五年春

菩薩戒童蒙談抄

文政二年五月

戒法の手引

明治三十一年十月、弘津説三校訂

菩薩戒落草談

禅海沙金集

率都婆用意鈔

重刻大般若經法性品

大応禅師語録

結制中之告報

普勸授戒之緣由

寂室堅光和尚歌集

寂室堅光禅師語要隨筆

寂室堅光禅師語録（氷壺録）三卷

黙室良要

放生功德緣起

准提觀世音利生記

革弊論

刊五陀羅尼經二卷

和大悲心陀羅尼經

法服格正

正法眼藏滿講綴一偈拈香宣揚頌

授菩薩十六條戒纂修懺要文

明治三十二年六月、高田道見復演

文政三年二月、序・堅光

文政四年秋、跋・堅光

文政五年二月、釵・堅光

文政七年二月、序・堅光

文政年間、

嘉永四年七月、如禅印施

嘉永五年序『続曹洞宗全書』語録三

文政二年三月

文政二年三月、万松寺准提堂藏版

文政三年綴置

文政四年十一月、護国林藏板

大正六年、新井石禅和訳、村上妙光印施、昭和二十七年八月、広島観音会刊

文政四年頃

文政八年二月～八月

文政八年秋、月潭書写

放生文

禪規略述二卷

十戒をよめる歌

黙室良要禪師録

黄泉無著

十大願文

永平道元禪師行狀之図二鋪

法界或問止啼錢三卷

もろこし談古

年中二諦考

心経忘筭疏

普門示現施無畏之図一鋪

二十二史反爾録補訂

般若心経枝指

正法眼蔵涉典統紹

永平小清規翼

緇林年芳

雖小菴雜稿

未刊（撰述書目による書名）

天保二年、跋・黙室、東武保善寺蔵版

不詳

不詳

大正十年四月、関戸元峰編『瑞岡珍牛禪師』

文化十年四月、跋・黄泉

文化十三年八月

文政四年十月、序・黄泉

文政五年六月、跋・田鶴丸

文政十一年十二月

文政十一年四月、序、文政十一年夏、開板

文政十二年七月

天保三年六月、序・黄泉、天保六年春刊

天保七年夏、序

天保八年八月、十月、明治二十九年八月再版、鴻盟社

天保九年六月

天保六年七月、序・黙旨、天保八年四月、凡例、校訂・黄泉

昭和二年書写、『統曹洞宗全書』語録三

貝葉韻藥（一切経韻府、一切経韻譜、三十卷）

華胥国語（随筆、四卷）

本朝三綱行実（加図、三卷）

海外三綱行実（加図、三卷）

新巻葉語（説十六条戒、三卷）

二十二史反爾録遺秉（反爾録秉穂、二卷）

正法眼蔵涉典統紹摺拾（三卷）

北野山大塔略記

証応道契

大蔵却鑰

文政十一年

となる。この著作から考えてみると、すべて享和二年の道元禪師五五〇回忌を終えた後の文化、文政、天保年間に著わされたもので、古規則復古を精力的に推進した時期も明らかになるう。そして、次のことが考えられるのである。

第一は、道元禪師の顕彰であった。すなわち、珍牛の『訂補建撕記図会』や『永平高祖行状記』、黄泉の『永平道元禪師行状之図』などがあり、道元禪師の生涯を、絵図をとり入れて平易に紹介しており、道元講や吉祥講などの檀信徒にも禪師の顕彰を行ったものと思われる。

第二は、当時の眼蔵家と称される程、道元禪師の『正法眼蔵』参究に努めたことである。それは、黙室の「正法眼蔵満講綴一偈拈香宣揚頌」をはじめ黄泉の『正法眼蔵涉典統紹』によって明らかになる。

第三は、十善戒を主とする十戒、あるいは五戒を説明した著作がみえる。特に寂室堅光は、慈雲飲光に学んで十善戒を研究し、珍牛や黙室は寛海豪潮、黄泉は諦忍妙竜について学んでおり、黙室には十戒をよんだ歌や『放生功德縁

起、『放生文』、黄泉には五戒をよんだ歌があり、深く戒律を研究していた。⁽⁶⁾

第四には、特に珍牛、黙室であるが、陀羅尼を翻訳して普及すべく著作があることである。これは尾張徳川家の加持祈禱を行うところから、密教に通じたものであろう。

第五は、清規を制定したことである。黙室の『禪規略述』、堅光の『寿山清規』、黄泉の『年中二諦考』と『永平小清規翼』などである。

推進者に及ぼした豪潮の影響

古規則復古の推進者には、共通性の著作のあることが明らかになったが、彼らには推進する上で、安楽律(天台宗)の寛海豪潮⁽⁷⁾(一七四九—一八三五)の影響がかなりあったのではなからうか。推進者の語録をみると、必ず豪潮に与える偈や法語などがあり、しかも著作には、序や跋が贈られており、親しく交流し戒律教学を教示されたものと思われる。共通の序、跋がみえる典籍をあげると、

準提懺摩法 豪潮著

序・文政元年仏歎喜日 豪潮

跋・〃 十一月 堅光

跋・文政二年一月 珍牛

立塔正儀 祖光来禅著

序・文政十一年春 黄泉

跋・〃 仏歎頂日 豪潮

大蔵却論 証応道契著

序・文政十一年夏

黄泉

序・文政九年四月

堅光

序・文政十一年

豪潮

正法眼蔵涉典統紹

黄泉著

序・天保七年八月

禹隣

序・文政五年

珍牛

序・年不詳

玄透

例言・天保八年八月

黄泉

のようになる。

では、豪潮の著作をあげると、

合刻三経解 寛政七年一月 序、跋・豪潮

準提懺摩法 文政元年仏歎喜日 撰并書

仏母準提供私記 文政九年六月 跋・亮照、尾州三密場蔵版

立身出世延寿開運子孫長久二世 安楽記（内題・陰隣文提要）

天保七年一月 跋・豪潮

恵心僧都白骨観之文

嘉永元年九月 白心印施

未刊（奥書の書目による書名）

準提供附録

のようになる。

そして豪潮の『準提懺摩法』は、黙室の『准提観世音利生記』を生み、推進者の住持した寺院を調査すると、準提

観音が衆寮の本尊となっていたり、豪潮が発願した宝篋印塔が建立されており、古規則復古を理論的に推進できた背景には、豪潮の功績が大きかったものと想像できるのである。

そして従来の黄檗式の禅堂と衆寮は、古規則に合ったものに改築され、珍牛は万松寺（名古屋市中区大須）の僧堂と衆寮を、堅光は清涼寺（彦根市古沢町）の僧堂を、さらに黄泉は大光院（名古屋市中区大須）、皓台寺（長崎市寺町）における禅堂を新たに僧堂に改築しており、活動地は尾張、近江、長崎を中心としたようである。

さて、以上のように、推進者の著作を整理してみたが、結局は道元禅師の顕彰であり、黄檗式をとり入れた大乘寺の『栴樹林清規』の批難から曹洞宗の純粋性を教理的、また行法的に保持せしめんとしたわけで、それを確立するために、裏付ける著作を出して江湖に知らしめたのである。

黙室良要の『禪規略述』の発見と形態

玄透の古規則復古を推進した著作に、黙室良要の『禪規略述』がある。これは、未だ学界に知られていない新資料であるが、『禪籍目録』（昭和三年二月 駒沢大学図書館）八四二頁をみると、黙室には、『略述清規』があったようである。この説は、横関了胤の『江戸洞門政要』（昭和十三年十月 仏教社）九二七頁や『新纂禪籍目録』（昭和三十七年六月 駒沢大学図書館）四九九頁にも踏襲されており、書名のみは知られているが、内容や所蔵者などは『禪籍目録』の刊行時でも不詳であった。しかし、私が発見した『禪規略述』は、この『略述清規』のことではなからうかと思う。『禪籍目録』には一冊とあるが、『禪規略述』は二冊のため、冊数は異なるが、書名は類似しており、同書であったろう。

ところで、本書は現在、愛知教育大学図書館に蔵されており、上下二巻二冊である。表紙は濃紺で、縦二五・六糎、横一八・三糎、巻上は四十丁、巻下は五十丁ある。外題は「禪規略述上」「禪規略述下」とあり、内題は「禪規略述巻上」「禪規略述巻下」となっている。著者名は、巻下の第一丁に「黙室纂集」とあり、黙室自身の直筆である。

本書の上、下二巻各々の第一丁には「尾藩寺社官府蔵書」という旧蔵印があり、初めは尾張藩の寺社奉行所に蔵されていたものである。それが尾張藩の藩校である明倫堂に移蔵され、さらに、明治五年の学制施行に伴う愛知県師範学校の設立により、そこから現在の愛知教育大学図書館に移蔵されるようになったものであろう。⁸⁾

では、どうして本書が尾張藩の寺社奉行所に蔵されていたかを考えてみるならば、同じく寺社奉行所に提出された黙室の『革弊論』の第一丁に、

文政三辰年

此一冊は、万松寺、珍牛弟子黙室取調乃由、古規則遵行願済に付、是まで大乘寺用の寺院より彼は難渋申立、御奉行所御苦勞に預り候事にも候得ば、猶亦重て御見合に可相成儀も可有之哉と指出置度旨に付、留置此所之綴置。

とあり、黙室は古規則遵行の願を寺社奉行所に提出したが、今迄大乘寺で用いられた『栴樹林清規』を基本とする寺院から種々煩わしい申し立てが出され、大変苦勞をかけた。そこで、それらをまとめて、黙室が文政三年に寺社奉行所へ提出したものであるといっており、『革弊論』と同時に『禅規略述』も提出されたのではなからうか。

『禅規略述』撰述と『革弊論』との関係

黙室が、本書を著わした直接の理由はまとめられていない。しかし、「然ルニ明規一ビ興テヨリ吾ガ永祖ノ親訓ヲ失却シ、僧堂ノ古様ヲ翻修シ、教家ノ十六観堂ニ擬構シテ、是ヲ禅堂ト称スルモノニナレリ。……祖説スデニカクノ如シ。希クハ慕古ノ児孫惑ヒヲ執ルコトナカレ。」というように、明規すなわち『黄檗清規』が曹洞宗にとり入れられて影響を及ぼしたが、それは道元禅師の親訓に合わないため、本書を著わしたものと思われる。そして正式の著作年次も記されておらず、本書の撰述年次を推考するには、同じく尾張藩寺社奉行所へ提出された『革弊論』とともに考えねばならないであろう。それは『革弊論』の第一段に、

今般、御寺万松寺珍牛和尚大光院黄泉和尚より、宗門元祖之規則進行被_レ致度旨被_レ奉_レ願処、早速被_レ為仰付録所正眼寺より御国中一派の寺院へ、当卯年より来巳年迄三ヶ年之内に、古規則進行相調候様可_レ致、右年限中に取調無之寺院は、夫々急度可_レ被_レ及_二御沙汰_一旨御触達御座候得共、是迄の規則にて弁道修学に不都合無_レ之。勿論大綱は、元祖之規則に相違無_二御座_一……

とあり、万松寺の珍牛と大光院の黄泉より古規則復古の願を寺社奉行所と尾張の僧録正眼寺へ出したところ、正眼寺から尾張国寺院へ当卯（文政二年）から巳年（文政四年）に至る三年間、古規則を遵行する達旨が出されており、さらに寺社奉行所からは、

近来、於_二永平寺_一開祖之規則修行に付、其御寺并大光院録所正眼寺初御領分中曹洞一派之寺院、祖規相準諸法式修行候様致度旨達_レ之趣申談候 右は元来宗祖之規則に付古規則遵行尤之事候間永退転無_レ之様可_レ被_二心得_一候尤大光院録所正眼寺においても古規則遵行有_レ之様申渡候旦又一派寺院法式復_二古規_一候儀末々に至ては急卒に難_レ被_レ行候はば年限を相立無_二油断_一相示候様可_レ致旨是又正眼寺え申渡候 右は御年寄衆え伺_レ之上相達候条可_レ被_レ得_二其意_一者也

山吹儀兵衛

文政二己卯年閏四月

実名書判

水野藤兵衛

実名書判

万松寺

とあるように、文政二年閏四月、万松寺と大光院へ対して、古規則の履行を、尾張の曹洞宗寺院に申し渡すことを心得た旨の書状が来ており、したがって、珍牛が万松寺住持となった文化十四年五月から文政二年閏四月の二年間に、

珍牛と黄泉が願を出し、それに対して、大乘寺式の清規を用いた寺院からの反論が『革弊論』第四段に、

……且又古規則の儀は十八九年已前、越前永平寺玄透禪師より日本國中準行致度旨被_レ奉_レ願候処、永平寺のみ御免許御座候。依_レ之右玄透禪師より國々録所被_二相資_一末々信仰の族は、隨喜致吳候様御頼御座候。乍_レ恐右等の段、何卒御賢慮を以て、厚御勘弁の程奉_二希上_一候以上。

卯九月

とあって、文政二年九月迄に書かれ、その反論に対して、文政三年迄に返破し、まとめて黙室が寺社奉行所へ提出したものであることができる。そのため『革弊論』は、寺社奉行所や正眼寺の申し渡しに反論して、上表文が書かれた文政二年九月以後にまとめられたものといえ、本書も同時期ではなからうか。

『革弊論』をみると、第一段は日々の行法を曉天から鳴し物、食事、日中諷經、坐禪などの勤行について述べられ、第二段は面山瑞方の『洞上僧堂清規行法鈔』を依用するか否かという点、第三段は法服に関する点、第四段は五条衣に関する点、第五段は読經に木魚を用いるかという点について述べられている。特に『革弊論』の第二段の主張は、面山の『洞上僧堂清規行法鈔』について述べられているが、それを具体的に裏付けたものが『禪規略述』ではなからうか。内容をみると、『洞上僧堂清規行法鈔』の本文をあげ、一々について黙室の意見や反駁などがある。また、『革弊論』の第三段の法服と第四段の五条衣に関しては、同じく黙室の『法服格正』に詳しく証明しており、そのため『禪規略述』は、『革弊論』の第二段を一層具体的に証明したものといえるのである。

したがって、玄透による古規則復古を推進した黙室は、『革弊論』によって、当時修行されていた清規依用者の意見に対し、簡単に返答して、それを具体的に証明するため、『禪規略述』と『法服格正』を著わしたものであろう。

『禪規略述』の内容

『禪規略述』の内容を簡単にながめてみると、巻上は、最初に僧堂と禪堂との相違について述べられている。特に、『黄檗清規』によって僧堂が禪堂と称され、役目も異なってきたが、その点について黙室は、「祖説スデニカクノ如シ。希クハ慕古ノ児孫惑ヒヲ執ルコトナカレ。」といい、古規則の僧堂を主張した。次に「日分行法次第」について、三十四項に分けられ、「述曰」として黙室の意見が述べられている。初めに、面山の『洞上僧堂清規行法鈔』巻一の「僧堂日分行法次第」の原文をあげ、それについて語の注釈や面山の主張を批難する。『洞上僧堂清規行法鈔』は、凡例に「僧堂ヲ重興シテ、永瑩ノ祖風ヲ後ノ英孫ニ伝シタメニ、コノ鈔ヲ述ス」と述べられるごとく、『永平清規』『瑩山清規』を主柱としていることはいうまでもない。そして『禪苑清規』『勅修百丈清規』をはじめ中国の清規と栄西の『興禪護国論』や無著道忠の『小叢林略清規』などをはじめとする日本で成立した諸清規を参照し、網羅して集大成した。また、威儀作法を実地に履践したが、黙室の主張によれば、『瑩山清規』を中心に成ったものといえる。その『瑩山清規』に対して、「瑩規ニ云ニ日中諷經トアルハ錯ナリ。瑩規ハ後人ノ妄添多シ。日中ヲ過テ齋食スルハ非法ナレバ、齋時ハ必定日中前ナリ。」というように、後人の妄見が多く取り入れられているといい、また、「瑩規ニ大悲咒三返ホドヨム間ニ一打ストアレドモ、ヨミ様ニ遅速アリ。格ニナラズ。今様ニ五更ニ鈴ヲ振テ堂中ヲ遶ルヲ内鈴ト称スルモノ古規ニナシ。」といったり、「瑩規ハソレヲココロヘチガヘテ図シタリ。ヨロシカラズ。」といい、『瑩山清規』を、正しい古規としては認めずに批難する立場をとった。そして『洞上僧堂清規行法鈔』は、「今ノ僧堂規ハ、瑩規ニ依テ書シタリ。」というように、『瑩山清規』を依用しているといい、黙室は『洞上僧堂清規行法鈔』を否定しているが、ひいては『瑩山清規』を、古規則として認めないことを主張したのである。したがって、『洞上僧堂清規行法鈔』の主張に対して、「近古早晨諷經了リテ住持并ニ侍者等心経ヤ消災咒等ヲ高声ニ諷誦シ、巡廊行香スルヲ巡堂ト云ハ誤ナリ。」とか「今時ワケモナク打槌スルコト戲論ナリ。……僧堂ノ進退ヲシラヌモノノ妄規ナリ。」また、「今時禪宗ニテ修行スル法ハ、一向ニ訣モナキ後人ノ妄作ナリ。」といった、厳しく反論した。

ところで、巻下は「月分行法次第」について述べられている。『洞上僧堂清規行法鈔』の「月分諷經回向文」もとり入れられ二十項にわたっているが、「述曰」の黙室の意見は余り述べられていない。そして続いて、「年分行法次第」を、三十一項に分けて述べられている。「月分行法次第」は、『洞上僧堂清規行法鈔』巻二の「月分行法次第」、「年分行法次第」は、巻三の「年分行法次第」に該当する。そして黙室は、多くの典籍を引用して意見を述べており、それをあげると、

律藏

薩婆多部毘尼摩得勒伽

根本薩婆多部律撰

論

阿毘達磨大毘婆沙論

中国典籍

禅苑清規

校定清規

備用清規

幻住庵清規

勅修百丈清規

大慧武庫

続伝燈錄

南海寄帰内法伝

仏祖統紀

釈氏要覽

李白詩

日本典籍

出家大綱

永平清規

瑩山清規

黃檗清規

洞上僧堂清規行法鈔

洞上僧堂清規考訂別錄

永平小清規

正法眼藏、安居、仏教、看經、袈裟功德

宝慶記

永平広録

建撕記

雑談集

などである。

なお、私は鏡島元隆氏が著わした「古規復古運動とその思想的背景」（昭和三十六年十月『道元禪師とその門流』誠信書房）の論稿に導かれ、古規復古運動の展開を究明すべく課題をもち、その研究過程において、『禪規略述』は、

古規復古運動を推進していく上の裏付けを主張した貴重な新資料といえることが明らかになった。したがって、ここに全文を翻刻し、大方に紹介するのである。

- (1) 玄透即中の古規則復古に関する主張は、大久保道舟『道元禪師清規』（昭和十六年十一月 岩波書店）解説や鏡島元隆「古規復古運動とその思想的背景」（昭和三十六年十月）『道元禪師とその門流』誠信書房）野乃花香藏「玄透即中の思想とその誓願」前篇、続篇（昭和五十年十二月、昭和五十一年十月 玄透禪師顕彰会）、『永平寺五十代玄透禪師遺墨集』（昭和五十六年四月 大本山永平寺祖山傘松会内玄透禪師遺墨集刊行会）などによって明らかになる。
- (2) 従来、無学愚禪の『規矩論』のみが、大乗寺の反駁として知られていたが、吉岡博道氏による『古規回復拙考』の発見により、大乗寺系の法類の意気込みが明らかになった。詳しくは、吉岡博道「永平玄透禪師と大乗曇瑞禪師」（昭和五十年八月 「傘松」三八三号 大本山永平寺）を参照されたい。
- (3) 『洞上法服格正』（明治二十九年十一月 鴻盟社）の西有穆山の序に「中古永平玄透禪師慨古規陵夷図之恢復先格正三法衣矣。当此時一宗囂然下輒隨者多焉。……」とあり、その様子が明らかになる。
- (4) 関戸元峰「瑞岡珍牛禪師」（大正十年四月 法華寺）や加藤晁堂「黄泉遺稿抄」（昭和十三年十一月 福寿院蔵版）などによる。
- (5) 『辟邪集』の書名は、大正八年、大中正（栃木県下都賀郡大平町）四十七世行円万中が記した「珍牛和尚黙室和尚兩師事考」（川口高風蔵）による。なお、本書は、万中が伝聞したことをメモしたものである。
- (6) 黄泉が不殺生戒、不偷盜戒、不邪淫戒、不妄語戒、不飲酒戒をよんだ歌は、瑞泉寺（名古屋市緑区鳴海町）に所蔵している。
- (7) 豪潮について最もまとまったものは、宇野廉太郎「豪潮律師の研究」（昭和二十八年十一月 日本談義社）がある。また、墨蹟については、石田豪澄「豪潮律師遺墨集」（昭和五十七年一月 日貿出版社）にまとめられている。なお、私は伝記に関する新資料を「新資料・『豪潮律師加持力盡驗見聞集』について」（昭和五十四年五月「郷土文化」一二四号 名古屋郷土文化会）と題して紹介しておいた。豪潮の戒律思想は、別の機会に考察する。
- (8) 愛知教育大学図書館に、明倫堂の蔵書がある点については、『愛知教育大学史』（昭和五十年三月 愛知教育大学）五三二頁以下を参照されたい。
- (9) 『革弊論』は従来、瑞岡珍牛著といわれてきた。しかし、拙稿「黙室良要著の『革弊論』の発見」（昭和五十二年三月「宗学研究」第十九号）によって、黙室の著作である

ことが明らかになり、本文は、拙稿『革弊論』の翻刻（昭和五十七年三月「宗学研究」第二十四号）で紹介した。
(10) 万松寺への書状は、正眼寺（小牧市三ツ淵）文書（現在、愛知学院大学附属図書館寄託）の整理番号五九七に収められており、大光院への書状も同文書に同文となっている。

『禪規略述』の翻刻

凡例

一、本資料は、愛知教育大学図書館所蔵の『禪規略述』を翻刻したものである。

一、翻刻にあたっては、紙面の都合上、字数や行数まで調整することはできなかったが、脱字と思われるものがあっても、そのままにとどめ、原本に従った。

一、使用活字についても、異体字、俗字、古字、別字などは、原則として原本に従ったが、組版の関係上、活字用正字に改めたものもある。

禪規略述卷上

僧堂

述曰。僧堂トハ、モト聖僧ヲ安スル号ニテ、聖僧堂ノ上略ナリ。叢林ニ構フベキノ專要ナリ。禪規ノ百丈規繩頌云。所_レ寔_ニ學衆無_ニ多少_ニ無_ニ高下_ニ尽_ニ入_ニ僧堂中_ニ依_ニ夏次_ニ安排_ニ設_ニ長連床_ニ施架_ニ掛搭_ニ道具_ニ云々。ソノ図様ハ、校定備用等ニ載タリ。本朝ノ嘉禎年中、祖師興聖寺ヲ深草ニ開創シ玉フニ、僧堂ノミ自ラ建立セラル。化簿ノ序文建誓記ニ見タリ。祖師ノ広録ニ云。当山始有_ニ僧堂_ニ是日本国始聞_ニ之始見_ニ之始入_ニ之始坐_ニ之学仏道人之幸運也ト。瑩規ニモ、庫下備_ニ淨粥等_ニ於_ニ筵盤上_ニ望_ニ僧堂_ニ焼香九拜トアルニテ、仏祖ノ行李ハミナコレ僧堂裡ノ修証ナルコトヲ知ベシ。然ルニ、明規一ビ興テヨリ、吾ガ永祖ノ親訓ヲ失却シ、僧堂ノ古様ヲ翻修シ、教家ノ十六觀堂ニ擬構シテ是ヲ禪堂ト称スルモノニナレリ。瑩規上堂章ニ云。候_ニ禪堂_ニ開大靜_ニ接_ニ鐘ト出ルモノ是ナリ。僧堂規考訂ノ自序云。案_ニ史_ニ以_ニ明洪武三十年丁丑_ニ命_ニ僧錄司_ニ行十三布政司_ニ凡有_ニ寺院_ニ処所_ニ俱建_ニ禪堂_ニ憶其版圖_ニ由_ニ教家_ニ十六觀堂_ニ一也。是故規繩頗似_ニ教苑清規_ニト。十六觀堂ノコトハ、仏祖統紀十四卷明智法師ノ伝ニ云。師令_ニ門徒_ニ介然始作_ニ十六觀堂_ニ以_ニ延_ニ

浄業之志云々。マタ続伝燈二十八靈隱慧遠禪師章云。天竺法師奏云。今日十六人入觀堂。修三年浄業云々。マタ、泉涌寺開山俊苾国師ノ色目記録ニモ載ラレタレドモ、ミナコレ教院ノ構ル処ノ図式ナリ。故ニ、宝慶記ノ中ニ永祖如浄禪師ニ問玉ハク。今天下ノ教院或構ニ十六觀之室、彼十六觀者出於無量壽經。乃至云。大宋學者未明三天台之教觀、而猥用ニ十六觀之帶權一欺。明知教院不可傳、仏在世之寺儀云々。如浄禪師ノ答云。汝當知今稱禪院、寺院、図樣儀式皆是祖師之親訓正嫡之直伝也。所以七仏之古儀、唯是禪院耳ト。祖説スデニカクノ如シ。希クハ慕古ノ児孫惑ヲ執ルコトナカレ。

日分行法次第

永規ニ辨道法トアリ。蓋シ辨道ハ二六時中ナリ。一日スデニカクノ如クナレバ、一歳カクノ如シ。一歳カクノ如クナレバ、尽未來際モマタカクノ如シ。始終カクノ如クナレバ、タトヒ果上ニイタルモ、マタコレ不退転ノ修証ナリ。日分ハ、一日一夜ノ時ヲ分ツ。行法ハ坐臥經行開單展鉢スベテ不染汚ニ修証スベシ。次第ハ初中後善清白梵行ナルナリ。

僧堂規ニ云ク。行法ノ時節刻限ヲ長短遲速スルハ、住持ノ意ニ由ルトイヘドモ、永平祖師云ク。我レ大宋ノ天童

禪院ニ居セシ時、浄老宵ニハ二更ノ三点マデ坐禪シ、曉ハ四更ノ二点ヨリヲキテ坐禪ス。長老ト共ニ一夜モ懈怠ナシト。コレニ依レバ、浄祖ノ時ハ大槩夜ヲ三分シテ、中間一分ホドヲ休息打眠ノ時トセリ。冬夏ノ夜ノ長短不同アルハ、ソノ時ニ由テ住持指揮スベシ。イマ昼夜等分ノ時ヲ以テ、定メハ四更ノ三点ヲ初トシテ、行者巡廊シテヨシ。

述曰。永規ニハ、後夜聞首座寮前板鳴、此板或三更、更一点二点各隨住持人指揮鳴也。大衆輕身而起ヨトアリ。今ノ僧堂規ハ、

盤規ニ依テ書シタリ。考ルニ、古ヘ支那ノ僧堂ノ広キハ、諸寮ノ衆寮主ヲ除テ、外ハミナ堂中ニ打眠ス。故ニ寮前ノ板ヲ聞テ起ルトアレドモ、今時僧堂ノ狭キハ多ク各寮ニ臥ス。依テ先振鈴巡廊シテ、一同ニ起テユルク洗面ヲ調ルニ便リ宜シカラン歟。打更点ノ作法ハ、僧堂規一卷丁廿二同規考訂二卷丁初ニ詳ナリ。

諸寮ハ、鈴ヲ聞テ起テ点灯ス。堂司行者先起キ洗面点灯シ、堂前ニ鳴版三下ス。ユルク打スベシ。

述曰。コノ打版ノ間ニ、諸寮ノ大衆洗面シテ僧堂ニ打坐ス。盤規ニ大悲呪三返ホドヨム間ニ一打ストアレドモ、ヨミ様ニ遲速アリ。格ニナラズ。今様ニ、五更ニ鈴ヲ振テ堂中ヲ遶ルヲ内鈴ト称スルモノ古規ニナシ。備用ニハ、堂内ニ酣眠ノモノアレバ、手巾ヲ牽テ驚ス

トアリ。マタ敕修ニモ、堂内手巾ノ轆轤ヲ牽テ驚ストアリテ、タゞ酣眠ノモノ、為ニスルノミ、故ニ小規ノ弁道法ノ夾注ニハ、猶有ニ酣眠者須レ振ニ鈴数声、不レ用ニ巡堂トハ書レタリ。マタ、今様ニ香司諸寮ヲ振鈴点燈シテ、前門ノ打版一下スレバ、次ニ直堂ノ人長打シ、衆寮前ヨリ次第ニ巡版スルハ非ナリ。堂前ノ鳴器ハ、堂司ノツカサドル処ニシテ、堂司行者コレヲ打スルガ作法ナリ。

大衆輕身ニシテ起キ、ヒソカニ枕バカリヲ函櫃ノ下ニ入テ、且ク被位ニ在テ、眠單ハシキナガラ面壁ス。

述曰。後夜ノ坐ハ、直綴ノミ袈裟ヲ搭ズ。被位トハ、各位ノ被ヲ置テ起臥スル処ヲ云フ。被ハ寝衣也ト註シテ、綿被ニテ著ルモノナリ。舜水談綺ニ、被ハ日本ノフトンニ少モ異コトナシト云。眠單トハ、單ハ孤也。薄也ト註シテ、單被ニテ敷モノナリ。永規云。未ニ開靜、前不レ得ニ收レ單、摺レ被。然レバ寒暖ニヨリテ、被ハ着ス時モアレドモ、單ハ敷ナガラ坐シテ、大開靜ヲマチテ單被ト、モノ収ム。惣ジテ法堂ヤ祖堂ノ諷經処ヲ被位トハイハズ。被位ト云ハ僧堂ニ局ルト云コトハ、僧堂規考訂四卷^{十一}ニ辨ズ。被位ノ略図ハ、同規一卷^{廿四}ニ出セリ。タゞシハ版ナリ。小清規下卷^{廿二}ニハ、十二版ノ図様ヲ上タリ披テ覽ルベシ。

浴司行者^{或ハ當日ノ直堂ノ人}洗面ノ湯ヲト、ノフ。暖ニハ井華ヲクム。堂衆洗面ハ、永規ニ伺其隙トアリテ、後架ノ混雜セヌ様ニ見合セ手巾ヲ携テ、上間ハ後門ノ南頬、下間ハ北頬ヨリ簾ヲ掲テ出テ、面盆ニ用ルホド湯或ハ水ヲクミ、洗面架ニテ洗面ス。洗面卷云。洗面ハ西天竺國ヨリツタハレテ、東震旦國ニ流布セリ。數百歳ノ仏々祖々オコナイ来リテ、タゞ垢膩ヲ除クノミニアラズ。仏祖ノ命脉ナリ。イハク。モシオモテヲアラハザレバ礼ヲウケ、他ヲ礼スルトモニ罪アリ。洗面法ハ、裾褌衫ヲ携ヘテ洗面架ニ赴ク。手巾ハ一幅ノ布、長サ一丈二尺ナリ。其イロ白ヲ禁ズ。

述曰。有ガ云。一丈二尺トハ曲尺ヲ以テ、コレヲ度ル。マタ、白ヲ禁ズルコトハ、竺土ノ俗ハ白ヲモテ貴トスルガ故ニ、モシ色ニ染ルトキハ壞色トナルガ故ニト。今時ハ手巾ト腰繩トヲ一混シテ別タス。兩様トモニ名実ヲ失ス。薩部勒伽六卷云。仏聽^{モリ}比丘畜^{ケル}三種腰繩、一謂編繩、二織繩、三線繩。マタ、律撰十二云。不レ聽^{モリ}繩線、一應^レ用^ニ腰條、一^ニ條有^ニ三種、一^ニ區二^ニ円三方異^ニ此者結^ニ小罪。寄歸伝云。其條濶^サ如^ニ指面。又云。腰條長^サ五^ニ肘許。コレヲノ文ニヨリテ、手巾ト腰繩トノ二ノ別ナルコトヲ知ルベシ。

中ヨリ折テ、左臂ニ掛ク。半ハ面ヲ拭ヒ、半ハ手ヲ拭フ

ナリ。鼻ノ内オヨビ鼻涕ヲ拭ハズ。ワキ、セナカ、ハラ、ヘソ、モ、ハギヲ、手巾モテ拭フベカラズ。垢膩ニ汚レタランニ、洗滌スベシ。沐浴ノ時、コノ手巾ヲ用ルベカラズ。洗面架ニイタリテ、手巾ノ中分ヲ頸ニカク。兩端ヲ、左右ノ肩ヨリ前ニ引コシテ、左右ノ手ニテ左右ノワキヨリ手巾ノ左右ノ端ヲ後ヘ出シテ、後ニテ各ヒキチガヘテ、左ノ端ハ右ヘキタシ、右ノ端ハ左ニキタシテ、胸前ニ当リテ結ブナリ。カクノゴトクスレバ、編衫ノ頸ハ手巾ニオホハレ、両袖ハ手巾ニユヒアケラレテ、ヒヂヨリカミニアガリヌルナリ。タトヘバ絆^{ダヌキ}ヲ繫タランガ如シ。ソノノチ、モシ後架ナラバ、面桶ヲトリテ竈ノホトリニイタリテ、一桶ノ湯ヲトリカヘリテ、洗面架ノ上ニオク。モシ余所ニテハ、打湯桶ノ湯ヲ面桶ニイル。次ニ、手ニ楊枝ヲ執テ呪願スベシ。華嚴經淨行品云。手執楊枝。當願衆生。心得正法。自然清淨。コノ文ヲ誦シ畢リテ、更ニ楊枝ヲ嚼ントスル時、スナハチ誦スベシ。

晨嚼楊枝。當願衆生。得調伏牙。噬諸煩惱。楊枝ノ長サ、アルヒハ四指、アルヒハ八指ト云。ヨク嚼デ齒ノウヘ、齒ノウラ磨力如クトキ洗ベシ。齒ノ根ノシシノウヘ、ヨク洗ベシ。齒ノアイダヨクカキソロヘ、清ク洗ベシ。然シテ後ニ、舌ヲコゾクコト三遍ナルナリ。血出ハ、マサ

ニ止ムベシト云。マタ、漱口ノ時、コノ文ヲ密誦スベシ。華嚴經ニ云ク。

澡漱口齒。當願衆生。向淨法門。究竟解脫。タビタビ漱口シテ、クチビルノ内ト舌ノ下アキニイタルマデ、右手ノ第一二三指等ヲモテ、指ノハラニテヨリ、ヨクアラヒノゾクベシ。楊枝ツカヒヲハリテ、屏処ニ棄ベシ。楊枝ステ、後、三彈指スベシ。漱口ノ水ハ、面桶ノ外ニハキスツベシ。次ニ、マサシク洗面ス。両手ニ面桶ノ湯ヲ掬シテ、額ヨリ兩眉毛兩目鼻孔耳中顚頰アマネク洗フ。マツヨクヨク湯ヲスクヒカケテ、然シテノチ摩沐スベシ。鼻涕鼻涕ヲ、面桶ノ湯ニオトシイル、コトナカレ。カクノ如ク洗フトキ、湯ヲ無度ニツヒヤシ、面桶ノ外ニモラシ、ハヤク失フコトナカレ。垢オチ膩ノゾカウリ、ヌルマデ洗フナリ。宜ク曲躬低頭シテ洗面シ、腰ヲ直フシテ水ヲ隣桶ニ潑クコトヲ得ザレ。洗面ヲハリテ面桶ノ湯ヲステテノチモ三彈指スベシ。次ニ、手巾ノ面ヲ拭フ。端ニテ拭ヒカハカスベシ。然シテ後、手巾モトノ如ク脱シトリテ、フタヘニシテ左臂ニカク。モシ公界ノ拭面アラバ、コレヲ用ユ。洗面ノアヒダ桶約ヲ鳴シテ、オトヲナスコトカマヒズシクスルコトナカレ。湯水ヲ狼籍ニシテ、近辺ヲヌラスコトナカレ。雲堂ニカヘランニ、輕歩低声ナルベシ。耆年宿徳ノ草庵、カナラズ洗面架アルベシ。洗面セザル

ハ非法ナリ。オホヨソ囓楊枝洗面コレ古仏ノ正法ナリ。道心辨道ノトモガラ修証スベキナリ。洗面了リテ帰堂シ、被位ニ大衆ノソロヘルヲ俟テ、堂司行者首座寮前ノ版ヲ打コト三下、首座ニ大衆ノ坐堂ヲ報ズ。首座搭袈裟、前門ノ南頬ヨリ簾ヲ掲テ入テ聖僧ニ問訊焼香シ、下間ヨリ上間ニ巡堂シテ位ニツク。袈裟ハ卸シテ函櫃ノ上ニ安ズ。

述曰。校規ニ、下間ヨリ上間ニ巡堂スルハ、首座ハ未出世ナルガ故ニトアリ。瑩規ニハ、檢ミ三ミ点ミ大衆ミ起不起ト見タリ。

次ニ方丈前ノ版ヲ打コト三下、住持諸堂ニ行香シ、末後ニ聖僧ニ行香前門ノ北頬、アルヒハ中間ヨリ入ル。出入トモニ方丈侍者簾ヲ掲ク。聖僧ニ問訊焼香三拜、上間ヨリ下間ニ巡堂シテ椅子ニツク。袈裟ヲ卸シテ椅子ニカケテ坐ス。

述曰。永瑩二規トモニ、五更ニ住持ノ行香ノコトナシ。堂規ニ、諸堂ニ行香スト書レシハ、敕規ニ依レタリ。校規ニ、上間ヨリ下間ニ巡堂スルハ、住持ハ已出世ノ故ニトアリ。瑩規ハ、呵ミ責ミ大衆坐睡トイハル。

侍者ハ、前門ノ南頬ニ立テ、住持ノ椅ニ著テ、後ニ聖僧ニ問訊シ、椅後ノ榻ニ著ク。コレハ行香ノ為ニ入堂スレドモ、伴禪トテ大衆ニ伴フテ坐ス。又焼香巡堂シテ出ルコトモアリ。三点ノ頃、大鐘百八声ス。

述曰。諸所ヲ巡視シテ賦香ス。故ニ行香ト云。然ルヲ、近古早晨諷經了リテ、住持并ニ侍者等心経ヲ消災呪等ヲ高声ニ諷誦シ、巡廊行香スルヲ巡堂ト云ハ誤リナリ。巡堂トハ、僧堂ノ内ヲ巡ルヲ云。瑩規ニ、主人半夜巡堂檢ミ三ミ点ミ衆有無ト。マタ、首座先洗面搭袈裟巡堂トアルニテ知ルベシ。侍者簾ヲ掲ル時ハ、住持ヨリ先ニ南頬ヨリ簾ヲ掲ゲ、入テ内ヨリ掲テ住持ヲイル。住持椅ニツクトキ、脇ヨリ蒲団坐褥オビ履ヲ直シテ、榻ニツクベシ。今様ニ、主人入堂ノ後、直堂ノ人前門ノ帳ヲ下ルト云フノハ非ナリ。後夜ノ坐ニ、前門ノ帳ハ初ヨリ上ス。何ゾ殊ニ下ルコトヲ用ヒン。禪規云。五更鳴ミ三ミ大鐘ミ者警睡眠也ト。瑩規ニハ五更ノ三点ニ鳴ストアリ。百八声ナレバ、夜ノ長短ニテ点ノ数ヲ考フベシ。但シ、更点ハ公界ノモノニシテ、更点ニヨリテ叢林ノ規則ヲ立ルモノニ非ズ。五五ノ点數ハ、支那日本トモニ城樓ノ警夜ナリ。一夜ノ時刻ニツリ合ス。李白ガ詩ニ、二十五声秋点長ト吟セシニテ知ベシ。

厨下淨粥ノ熟ヲ俟テ、小開靜厨前ノ雲版ニ通ユルク打ス。次ニ、大開靜諸堂ノ版ト鼓ト一時ニユルク打ツコト一通、コノ時マタ雲版モ合セテ打ス。

述曰。永規ニ云。所レ謂厨前雲版及諸堂前版一時俱擊トアリテ、鼓ヲ擊コト見ヘズ。瑩規ニハ鼓板擊動トアリ。

今ノ依ル所ナリ。小開静ノ間ニ、諸堂當職ノ行者大開静ノコ、ロヘシテ、鼓板ノ辺ニ到リ居テ、小開静ノ鳴リヤムト。ソノマ、一時ニ音ヲソロヘテ交^ハ打^ツコト一通ス。中古小院ニテ、大鼓ヲ鐘ノ側ニ置キ、大鼓ノ楮ニテ雲版ノ代リニ鐘屑ト大鼓トヲ一人デ打ヲ開静トイウハ、少衆ヨリ起ルノ弊ナリ。然ルヲ、大衆安居スル処ニテモ、ソノ弊ヲ學ブモノハ畢竟盲昧ヨリ起レリ。樂規ノ堂規章ニ、日分ニ五タビ開静スルコトアリ。ソレガコノ方ヘ移リテ、今様ニハ版三通シテ、堂中ノ小磬ト手磬トヲ順次ニ鳴スコト、三タビスルヲ開静ト心得チガヘリ。改ムベシ。雲板ノコトハ、支那十刹ノ図ニノセテ、起雲ノ形ヲ作ル。雲ハ雨ヲ含ムユヘニ、厨下ニカケテ鎮火ノ意ヲ寓ストナリ。

次ニ、時ヲ考ヘ、オホヨソ日ノ出ニ刻半マヘハ夜ト昼トノ分レ。コノ時五更ノ五点ヲ打テ、曉鼓ヲ打ス。平撃三通ナリ。

述曰。敕規云。更鼓早晚平撃三通。余随^ハ更次^ニ撃^ツ。庫司主^レ之トアリ。コレハ、早ハ五更ノ五点以後ノ三通。晩ハ初更ノ一点以前ノ三通ナリ。平撃トハ、ハジメヲワリトモニ平カニ同音声ナリ。大叢林ハ、諸所ニ鼓アリ。中ニ庫司ノ鼓ニテ、更ヲ打ス。ユヘニ、庫司主之トハ云ナリ。

堂司行者、マヅ前後門ノ簾ヲアゲ、住持出堂ス。次ニ、首座前門ヨリ出堂ス。寮衆ノ内堂ナルハ、後門ヨリ出堂ス。

述曰。永規ノ晡時ノ坐ノ畢リノ文ニ云。若住持人在^レ堂住持人起^レ坐。問訊^ニ到^ニ聖僧前^ニ。問訊^ニ訖^ニ出堂^ニ火衆下^ニ牀^ニ。問訊^ニ上下^ニ肩^ニ。イマコノ文ヲ引テ例スルニ、住持椅ヲ下テ聖僧前ニ揖シ、出堂シテノチ、大衆ハ下牀シテ互ニ問訊スベシ。

堂内ノ衆ハ、被單ヲタタミ、函櫃ノ下ニ入ル。單ハ下被ハ上ナリ。

述曰。イマダ開静セザルニ、被ヲ摺ミ、單ヲ收ルコトヲ得ザレ。被ヲ摺ムハ、両手ニ被ノ兩角ヲトリ合セテ、縦ニ折テ四重トナシ、内ニ向テ折テ四重トナシ、都テ十六重トナシテ、眠單ノ奥頭ニ安ズ。重アル方ヲ身ニ向テ安ズ。眠單ハ被ノ下ニタ、ミ収メ、枕ハ被ノ内ニ挿ムト。永規ニ見ユ。今時モ五幅ノフトンニハ、古ノ摺ミ様ニ合ス。

次ニ函櫃ノ上ノ袈裟ヲヒラキ、如法ニ搭クベシ。

述曰。永規云。次向^ニ袈裟^ニ而合掌^ニ以^テ兩手^ニ擊^ツ袈裟^ニ以^テ安^ニ頂額^ニ上^ニ合掌^ニ發願^ス。偈曰。

大哉解脱服。無相福田衣。披奉如来教。広度諸衆生。袈裟功德ノ卷ニ、コノ偈ヲノベテノ玉ハク。シカシテ

ノチ着スベシ。袈裟ニオキテハ、師想塔想ヲナスベシト。

コノ時、直堂交牌ス。直堂ハ堂衆一日アテ、互ニ堂中ノ衣鉢ヲ看守ス。上間ノ二戒ヨリ始テ戒臘並ニメクル。直堂牌ヲモテ、当日ノ上座ノ被位ノ前ニ置テ問訊シ、上座今日直堂トイヒテ牌ヲワタシ、又問訊シテ帰位ス。直堂ノ人ハ、ツネニ堂ヲ離レズ。上堂小參ニモ留守ス。堂中失物アレバ、直堂ノ人ノ罪ナリ。

大衆ハ、袈裟ヲ搭テ牀縁ニ向ヒ、縁ヲ去ルコト五寸ホドニ坐シ、粥時ヲ待ツ。

述曰。牀縁ヲ去コト五寸ハ禪規ナリ。永規赴粥飯法云。須退身一鉢許地。以明護淨細註シテ云。一安袈裟ニ展鉢盂三頭所向是名三淨トアリ。

コノ間ニ、堂司行者兩戸障子窓簾ヲアク。

曉鼓ノ後厨前ニ長版ヲ打ス。時ニ、堂外ノ大衆一時著衣入堂シ、マヅ牀座ノ方ニ向テ問訊ス。コレ上下肩ヘノ問訊、両方ニ分テスルニ及バス。中ニスレバ、両肩ヘカ、ル左肩ニ順転シテ、对座ニ問訊シ、右手ニテ左ノ衣袖ヲ腋下ニヲシ定ム。右モ亦左ニ同シ。次ニ、両手ニテ面前ノ袈裟ヲ提起シ、足ヲ雙テ牀近ノ地ヲ踏デ、牀縁ニ坐シテ棄鞋ス。右手ニ牀ヲ按ジ、左脚ヲ縮テ上牀ス。次ニ右脚ヲ収メ、正坐シテ左脚ヲヲシ、ク。又左右脚ヲ縮ル法

モアリ。次ニ袈裟ヲ展テ、膝ヲ覆フ。內衣ヲカクシ、袈裟ノ端ヲ牀縁ニタレズ。牀縁ヨリ退身シテ坐ス。

典座ハ、淨粥ヲ台盤ニ催テ、僧堂ニ向テ九拝シ、行者ニ命シテ送ル。モシ仏祖ニ上粥ノ儀アレバ、長版前ニ殿鐘ニテ上殿ス。

述曰。禪永二規トモニ鳴版三会トアリ。瑩規ニ三十六版トアリ。委クハ僧堂規一十三ニ辨セリ。今時、早晨諷經ノ中、供司預メ淨粥ヲ辨ジテ壇上ニ安ジ、三十六版ヲ打ハシムルト。ヒトシク侍聖ノ人搭袈裟シテ線香ヲ点ジ、前門外ニ立テ不審ト云テ揖シテ、入堂上香獻粥ス。供司五磬ヲ打シ、侍聖展具三拜スルコト諸清規ニ拠ナシ。槩規ニモ已ニ課誦々畢候、雲版鳴ニ齊過堂粥トアリ。シルベシ三十六版ハ仏餉ヲ上ル為ニ鳴ス。道理ナキコトヲ。

長版ノ次ニ、木魚三通コノ時行者ミナ僧堂ノ前門ニ集テ喝參。

述曰。今時諷經ニ打スルニ頭接身団形ノ木魚ハ、明朝ノ製ト見ユ。古規ニ長形ノ木魚ヲ堂内ニ安ジテ、食時ノ鳴器ニ備ルコトハ、婆娑論ヲ按ズルニ云。印土有僧不レ受ニ師訓。死生三大魚。背上座ニ大木。痛苦難レ忍。常恨ニ先生師訓疎。逢ニ其師駕。船。欲レ報レ恨向レ師。師告曰。我訓汝々不レ受。其報如是。魚屈理曰。以ニ

我背上木^ニ願^ハ作^ニ法器^ニ救^レ我^ヲ云^フ了後魚死^シ不^レ隨^レ波^ニ到^リ師^ニ処^ニ師^ニ隨^ニ彼^ニ本^ニ形^ニ刻^レ作^レ魚^ノ備^ニ粥^ノ飯^ノ之^ノ器^ヲ用^ニ擊^ニ其^ニ服^ニ救^ニ彼^ニ畜^ニ身^ニ取^レ意^ヲ又^ニ玄^ニ并^ニ指^ニ婦^ニ曲^ニニモ、木魚ヲ作ツテ、太宗^ニ奏^ジテ^ニ齊^ニ時^ニ打^シムルノ縁^ヲヲ^ニ挙^{タリ}。槩^ニ候^ニ、柳^ノ鳴^ニ、開^ニ靜^ニ、歸^ニ位^ニ聽^ニ版^ニ。過^ニ堂^ニ飯^ニトイフ。柳ハ正字通^ニ、柳^ノ斲^ニ木^ノ背^ニ、穿^レ孔^ニ官^ニ衙^ニ設^ニ之^ニ為^ニ号^ニ召^ニ之^ニ節^ニトアレバ、柳ハコレ支^ニ那^ニ軍^ニ用^ニ号^ニ召^ニノ器^ニニシテ、法器ニハアラザルナリ。諸行者喝^ニ參^ニノコトハ、磬^ニ規^ニニ魚^ニ鼓^ニ三^ニ会^ニ、初^ニ童^ニ行^ニ等^ニ堂^ニ前^ニ門^ニ限^ニ外^ニ立^ニ列^ニ望^ニ、聖^ニ僧^ニ、深^ニ問^ニ訊^ニ又^ニ手^ニ參^ニ頭^ニ喝^ニ參^ニノ頭^ニ、喝^ニ云^フ不^レ審^ニトアルヲ、今^ニ時^ニ侍^ニ聖^ニノ人^ニ聖^ニ僧^ニニ供^ニヲ獻^ニズルノ辞^ニトスルハ錯^ニリナリ。今ハ、參^ニ頭^ニノ人^ニ參^ニト喝^ニスレバ、諸行者不^レ審^ニト唱^フ。參^ニハ趨^ニ承^ニノ義^ニニテ、參^ニジテ用^ニヲ承^ニルノ義^ニ、不^レ審^ニハ大^ニ衆^ニノ安^ニ否^ニヲ問^ニ訊^ニスルノ義^ニナリ。惣^ニジテ不^レ審^ニ珍^ニ重^ニト云^フハ、衆^ニ中^ニ相^ニ見^ニノ最^ニ初^ニ末^ニ後^ニノ礼^ニ式^ニノコトバナリ。故^ニニ、僧^ニ堂^ニバカリニ限^ニラズ諸^ニ堂^ニ前^ニニテモ喝^ニ參^ニスルコトアリ。

次ニ、厨前ノ雲版一通大衆下鉢ス。

述曰。永規云。次聞^ニ厨^ニ前^ニ雲^ニ版^ニ鳴^ニ、大^ニ衆^ニ一^ニ時^ニ下^ニ鉢^ニトアレバ、敕^ニ規^ニ備^ニ規^ニニ長^ニ版^ニト云^フハ、木^ノ魚^ノ以^テ前^ニノ長^ニ版^ニトマギ^ニラハシケレバ、僧^ニ堂^ニ規^ニニ下^ニ鉢^ニ版^ニト云^{ベシ}トアル義^ニ聞^ニハ易^ニシ。下^ニ鉢^ニノ法^ニハ、舉^ニ身^ニ安^ニ詳^ニトシテ立^ニ定^ニシ、右^ニニ転^ニ身^ニシ、掛^ニ搭^ニ單^ニニ向^ニテ合^ニ掌^ニ低^ニ頭^ニ略^ニ問^ニ訊^ニシ了^ニテ鉢^ニヲ取^ル。左^ニ手^ニニ提^ニ鉢^ニシ、

右^ニ手^ニニ解^ニ鉤^ニシ、両^ニ手^ニニ托^ニ鉢^ニシテ高^ニ低^ニナラズ。当^ニ胸^ニシ上^ニ肩^ニニ転^ニ身^ニ曲^ニ躬^ニシ坐^ニセ^ニトスル^ニトキ、上^ニ肩^ニノ背^ニ後^ニニカリニ鉢ヲ安^ニジテ坐^ス。コノ時、聖^ニ僧^ニ侍^ニ者^ニ聖^ニ僧^ニノ飯^ヲヲ供^ニ養^ニス。堂司^ニ行^ニ者^ニ餉^ニ器^ニヲ擎^ニケ、先^ニニ歩^ニシテ卓^ニ上^ニニ安^ニズ。聖^ニ僧^ニ侍^ニ者^ニツヅ^ニヒテ入^ニ堂^ニ燒^ニ香^ニ薰^ニ香^ニシテ獻^ニ備^ニシ、退^ニ身^ニシテ曲^ニ躬^ニ問^ニ訊^ニス。述曰。僧^ニ堂^ニ規^ニニ侍^ニ者^ニ供^ニヲ獻^ニジテ三^ニ拜^ニ、行^ニ者^ニ打^ニ磬^ニスト見ユレドモ、今ハ永^ニ瑩^ニ二^ニ規^ニニ退^ニ身^ニ問^ニ訊^ニストアルニ依^ル。行^ニ者^ニハ、供^ニヲ收^ニテ位^ニニ就^ニク。侍^ニ者^ニハ直^ニニ槌^ニ碓^ニノ所^ニニ赴^ニテ、袱^ニ子^ニヲ除^ニテ合^ニ掌^ニシ、マタ正^ニ面^ニニ問^ニ訊^ニシ、右^ニニ転^ニ身^ニシテ出^テ、知^ニ事^ニ牀^ニノ末^ニノ本^ニ位^ニニ歸^ル。

下鉢版ノ後、雷鼓三会ノ間ニ、住持赴堂入ントスルコロ、行者堂前ニ鉢鐘七下ス。

述曰。禪規ニ三通鼓鳴者住持人赴堂也トアリテ、警衆章ト規繩頌ト両処ノ文ヲ詳ニスルニ、第三会ニ鼓鐘ナラベ響ス。コノ時、主人入堂ナリ。又磬規ニモ、庫前ノ雲版三会。第三会堂前小鐘合鳴。報^ニ主^ニ人^ニ入^ニ堂^ニトアリテ、禪規ト同意ナリ。敕^ニ規^ニニ齊^ニ鼓^ニ、三通如^ニ上^ニ堂^ニ時^ニト見ヘタリ。

コノ時、内外堂ノ大衆一時ニ下鉢シ住持ヲ迎エ住持聖僧ニ問訊シ了テ、大衆ト問訊シテ椅ニツキ了テ大衆上鉢ス。侍者沙弥ハ、住持ニ随ヒ来テ堂外ニ排立ス。大衆ノ坐スルヲ待テ、一時ニ問訊シ、湯藥侍者ハ卓子ヲ住持前ニ安

ジ、問訊シテ出ヅ。衣鉢侍者ハ住持ノ鉢盂ヲ卓上ニ安ジテ、出衣鉢湯薬カクレバ外ノ侍者ツトム。コノ時、大衆モ鉢盂ヲ座前ニ安ズ。次ニ、維那入堂大衆安鉢ノ後、維那入堂シテ聖僧前ニ問訊焼香シ、復問訊シ合掌ナガラ砧ノ辺ニ到テ揖シテ打槌一下。或ハ打槌セズシテモ展鉢ス。展鉢ノ法ハ、マツ合掌シテ復帕ノ結びヲトキ、鉢拭ヲ取テ疊テ横ニ一半ニ折り、豎ニ三重ニ折テ頭鎖ノ後ニヲキ、次ニ匙筋帛モソレト齊シフス。鉢拭ハ、長サ一尺二寸ノ布一幅ナリ。次ニ、淨巾ヲ展テ膝ヲ覆フ。次ニ復帕ヲ開テ身ニ向フ。一角ヲ牀縁ニ垂ル。次ニ、外ニ向フ。一角ヲ裏ニ向ヘテ折ル。左右ノ角ヲ、前ニ向ヘテ折テ鉢ノ底ノ辺ニ至ラシム。次ニ両手ヲ以テ、鉢單ヲ開テ右手ヲフセテ身ニ向フ。單縁ヲトリテ鉢ノ口ノ辺ヲ蓋ヒ、左手ニテ鉢ヲトリ、單上ノ左ニ置ク。但シ、鉢單ハ鉢ト復帕トノ間ニ挟マル。次ニ、両手ノ大指ニテ鎖子ヲ進取シテ、小ヨリ次第二展ブ。一々拭フ声セザレ。坐位窄キハ三鉢ヲ展フ。鎖子ヲ展ヘ了テ、次ニ匙筋帛ヲ開テ、マツ筋ヲ出シ、頭鎖ノ後ニ安ズ。筋頭ハ上肩ニ向フ。次ニ匙モ筋ト同ジ。次ニ、刷ハ頭鎖ト第二鎖ノ間ニ置ク。内ヨリサシ出シ刷柄外ニ向フ。次ニ匙筋帛ヲ折テ、鉢ノ後ノ單ノ下ニ鉢拭ト同ク横ニハサミ安ズ。

吉凶斎ニ逢ハ、行香シ罷テ跪爐ス。

次ニ、維那打槌一下ス。大衆槌ノ声ヲ聞テ合掌シ、偈ヲ想念シテ云。

仏生迦毘羅。成道摩訶陀。說法波羅奈。入滅拘絺羅。次ニ、合掌シテ展鉢ノ偈ヲ想念シテ云。

如來應量器。我今得敷展。願共一切衆。等三輪空寂。次ニ打槌一下シテ云。

稽首薄伽梵。圓滿修多羅。大乘菩薩僧。功德難思議。今晨修設有疏。恭對雲堂二代伸宣表。伏以慈証罷曰上來文疏已具披宣聖眼無私諒垂照鑑。仰憑尊衆念。

清淨法身毘盧舍那仏。

圓滿報身盧遮那仏。

千百億化身釈迦牟尼仏。

當來下生弥勒尊仏。

十方三世一切諸仏。

大乘妙法蓮華經。

大聖文殊師利菩薩。

大聖普賢菩薩。

大悲觀世音菩薩。

諸尊菩薩摩訶薩。

摩訶般若波羅蜜。

述曰。有ガ云。十仏名ハ、弥天道安ノ作ナラン。普賢ニ大聖、大行ヲ分ツハ、大行ハ天子崩御ノ称ユヘニ忌

ムト古説アリ。ソレ故カ、安居ノ卷ニハ大聖トアリテ、文殊ト對ナリ。永規ニ、大乘トアルハ道理ニアラズ。後人ノ改寫ナルベシ。日用清規ノ鈔ヲ閱ルニ、宣唱ニ大乘普賢^ニアレドモ、コレハ、近世ノ鈔ナレバ依用シガタシ。千光祖師ノ述セラレシ出家大綱ヲ閱ルニ、建仁ノ清規ヲ出セリ。ソノ中ニ、十仏名ヲ列ネテ大聖普賢トアリ。コレ葉上祖師ノ古儀ナレバ、安居ノ卷ノ抛ト見ヘタリ。

打槌オソキハ、仏頭ヲ打ツ。ハヤキハ、仏脚ヲ打ツト永規ニ誠ム。拳槌五寸ヨリ高ハ非法ナリ。最初展鉢一下、次ニ表歎一下、次ニ仏名十一下、首座ノ咒願一下、食モリ了テ遍食一下、合テ十五下、遍食ノ一下ニテ槌ヲ砧上ニ伏セテ合掌シ、出堂歸位シテ喫食ス。

述曰。僧堂規ハ、下堂槌マデ二十六下ニナル。禪規ハ、打槌十下者念十仏名也トアレバ、合テ十五下トナルナリ。カクノ如ク打槌ニ定リアリ。今時、ワケモナク打槌スルコト戲論ナリ。況ンヤ汁槌ナド、称シテ、食ノナカハ打槌スル様ナコトハ、槌ハイツモ維那ノ傍ニアルモノト意得ル。僧堂ノ進退ヲシラヌモノ、妄規ナリ。永規云。如^レ遇^ニ尋常^ノ填設^一即白槌曰。

仰惟三宝威賜印知。更不^ニ歎^一仏^ニ也。十声仏羅^ヲ打^ツ槌^ヲ一下。首座施食。粥時曰。

粥有十利。饒益行人。果報無辺。究竟常樂。齊時曰。

三德六味。施仏及僧。法界有情。普同供養。

述曰。禪規ニ仰憑尊衆長声念トアリテ、十仏名ハ、大衆同音ニテ唱ルガ本式ナリ。今時ハ維那バカリ唱フ。日本ノ濟下様ナリ。藥派ハ同音ナリ。三德六味ノ偈ヲ、永規ニハ首座施食ト云ヒ、盤規ニハ施食呪願トアレバ、施食トモ呪願トモ云ベシ。今時様ニ、十仏名ノ次ニ制中ノミ首座前唄ヲ唱ルモノト心得ルハ、モト処世界梵ヲ後唄ト称スル故ニ、訣ヲシラヌモノガ三德粥有ノ施食ヲ前唄トイヒナラハシタルモノナランカ。マタ、制中ノミ首座位ヲ請スルモノト心得ルハ、古風ニ味キ故ナリ。首座ハ頭首ノ上位ニシテ、住持ニ代リテ衆ヲ教示スルノ大任ナリ。故ニ、前首座退ヲ告レバ、直ニ人ヲ撰ンデ後、首座ヲ請ス。叢林一日モ、コノ職ヲ人ヲ關クベカラザルコトヲ知ルベシ。

十仏名ノ半バゴヨリ、喝食行者前門ノ南頬ヨリ入テ、聖僧ニ問訊シ、轉身シテ住持ニ問訊シ、次ニ首座ニ問訊シ、聖龜ノ北ヲマハリ、前門ノ内南頬ノ版頭ノ側ニ聖僧ニ向テ問訊シ了テ叉手シ、立テ初二香飯ヲ喝シ、次ニ香藥ヲ喝シ、飯藥トモ行了テ香釘ヲ喝ス。三種遍ジテ、維那打槌一下ス。大衆アマネク合掌シ、次ニ揖食ス。

又手ヲ擎テ低^ヘ掛シ畢テ定印ヲ結び、五観ヲ想念ス。云。

一、計^{ハカリ}功^{カウ}多少^{シヤウ}、量^{ハカリ}ニ彼^{カノ}來^キ處^{トコロ}。二、付^{ツキ}己^ミ德行^{トクギョウ}、全^{ツキ}欠^{ケツ}、一^{ツキ}應^{オウ}レ供^{コウ}。三、防^{ホウ}心^{シン}離^リ過^カ貪^{コン}等^{トウ}、爲^{タガ}レ宗^{ソウ}。四、正^{シヤウ}事^ジニ良^{リョウ}菓^カ、爲^{タガ}レ療^{リョウ}ニ形^{ギョウ}枯^コ。五、爲^{タガ}レ成^{セイ}ニ道^{ダウ}業^{ギョウ}、一^{ツキ}應^{オウ}レ受^ウ此^{コノ}食^{シキ}。

五観ヲナシ畢テ、出生ノ偈ヲ想念シテ云。

汝等鬼神衆。我今施汝供。此食遍十方。一切鬼神共。右手ノ大指ト頭指トヲ以テ、飯ヲ撮テ出生シ、凡^{ソノ}生飯ハ七餅ハ半錢ノ大ホドニ過ス。麤^コハ刷柄ノ上ニ安ズ。次ニ三匙ノ一寸ニ過ス。粥ハ出生セズ。麤^コハ刷柄ノ上ニ安ズ。次ニ三匙ノ偈ヲ想念シテ云。爲^{タガ}断^{ダン}一切^{イツキツク}惡^{アク}。爲^{タガ}修^{シュ}一切^{イツキツク}善^{ゼン}。爲^{タガ}度^{タク}一切^{イツキツク}衆^{シュウ}。爲^{タガ}回^{クワイ}向^{キョウ}仏^{ブツ}道^{ダウ}。モシ、施財アレバ首座ノ施食ヲ唱ヘ了テ観想出生ノ後、維那聖龜ノ後ヨリ転ジテ首座ニ問訊シ、施財ヲ請シ歸位シテ打槌一下スレバ、首座施財ノ偈ヲ唱ヘテ云。

財法二施。功德無量。檀波羅蜜。具足円満。

庫頭或ハ維那、次第二観ヲ行ク。僧前ノ鉢単上ニツクナリ。一衆合掌シテウク眼ニ見ズ。齋了テ収ム。喫食ノ法ハ、粥時ハ右手ヲ以テ頭鎖ヲ把リ、コレヲ左掌ニ安ジ、指頭スコシ龜^{カメ}メテ鎖^サヲ拗^ヤヘ、次ニ、右手ニ匙ヲ把リ、鎖^サヲ頭鉢ノ上肩ニ近ケテ、七八匙バカリ拾取テ、頭鎖ヲ口ニ近ケテ匙ヲ用テ喫粥ス。ソノ通り数番シテ、粥ヲ尽スヲ限トス。然シテ後ニ、頭鉢ノ粥ヤウヤク尽ントスル時ニ、頭鎖ヲ鉢単ニ安ジ、次ニ頭鎖ヲ把テ、其粥ヲ喫尽シ、

刷ヲ使テ淨カラシメ、且ク洗鉢水ヲマツ。齋時ハ、鉢盂ヲ擎テ口ニ近ケテ食ス。鉢盂ヲ單上ニ置テ、口ヲモテ鉢ニ就テ食スルコトナカレ。鉢盂ノ外辺ナカバヨリ上ヲ淨ト名ケ、ナカバヨリ下ヲ触ト名ク。大姆指ヲモテ、鉢盂ノ内ヲ捏ジ第二第三指ヲ鉢盂ノ外ニ着ケ、第四指五指ハコレヲ用ヒザレ。手ヲ仰テ鉢盂ヲ把リ、手ヲ覆セテ鉢盂ヲ把ノ時、ミナカクノ如シ。然シテ後、ヤウヤク大衆ノ飯ヲ喫尽スルヲ俟テ、行者入堂シテ再請ヲ喝ス。イマダ再請ヲ喝セザレ。二刷ヲ使フコトナカレ。モシ、香菓アラバ再請ノ次ニ喝セヨ。食訖ノ偈ヲ念ゼザル前ニ、喫菓スベシコレ仏制。淨人飯ヲ進ム。大衆ヒトシク喫尽スルヲ俟テ、行者収生ヲ喝ス。淨人生飯ヲ撒ツ。次ニ香湯ヲ喝ス。淨人湯ヲヒク。

述曰。アル時ハ、三請ヲ喝スルコトモアリ。住持ノ指揮ニ依ルベシ。僧堂規ニ、香湯ノ次ニ収生ヲ喝ストイヘルハ、便利ニ宜シカラズ。イマダ収生ヲ喝セザレバ、香湯ヲ受ルトイヘドモ、刷ヲ使用スルコト能ハザルガ故ニ、

一衆湯ヲ頭鉢ニ受テ、鉢中オヨビ鎖内ヲ洗フ。次第二末鎖ニ写シテ喫ス。コレヨリ以下ハ、齋次ニ、行者淨水ヲ喝ス。淨人水ヲ行ク。洗鉢ノ法ハ大衆水ヲ頭鉢ニウケ、鉢刷ヲ用テ、右ニ頭鉢ヲ転シテ洗テ淨カラシム。水ヲ頭鎖ニ移シテ、左手ニ鉢ヲ旋シ、右手ニ刷ヲ用ヒ、鉢盂ノ

内外ヲ洗ヒ畢テ左手ニ鉢ヲ托シ、右手ニ鉢拭ヲ取テ鉢口ニノヘ覆ヒ、両手ニ鉢ヲ把テ順転シ、拭テ乾カシ、且ク鉢拭ヲ鉢盂ノ内ニ安ジ、外ニ出サバレ鉢盂ヲ鉢櫨ノ上ニ安ジ、匙筋ヲ頭鎖ニ洗フ。洗ヒ了テ鉢拭ヲモテ、コレヲ拭ヒ畢テ、帶ニ納レテ横ニ頭鉢ノ後ニ安ズ。次ニ頭鎖ヲ第二鎖ニ洗フノ時、左手ヲモテ頭鎖ト鉢刷トヲ併セトリテ略提シ、右ヲモテ第二鎖ヲ把テ頭鎖ノ位ニ安ジ、然シテ後ニ、水ヲ渡シテ頭鎖ヲ洗フ。第二第三鎖ヲ洗フコトモコレニ準ズ。洗ヒ了テ拭テ乾カシ、頭鉢ノ内ニ収メ、次ニ鉢刷ヲ拭テ匙筋帶ニ併セイル。次ニ、行者折水ヲ喝ス。淨人折水桶ヲ進ム。一衆合掌シテ偈ヲ想念シテ云。我此洗鉢水。如天甘露味。施与鬼神衆。悉令得飽滿。庵摩休羅細婆娑訶。コノ呪、禪規敕規等ニモ出レバ小規ニモコレヲ引リ。然シテ後ニ鉢水ヲ桶内ニ折ス。折ス時ハ、鎖子ノ口ヲ内ニ向テ傾瀉スベシ。拭テ、鉢盂ノ内ニ収ム。次ニ、左手ヲ仰テ鉢ヲ把リ、復帕ノ中心ニ安ジ、右手ヲモテ身ニ近キ單縁ヲ把リ、鉢盂ノ上ニ蓋ヒ、両手ニ鉢單ヲ疊テ鉢盂ノ口ニ安ズ。次ニ、身ニ向フ帕角ヲモテ鉢上ニ覆ヒ、マタ牀縁ニ垂ルノ帕角ヲ以テ、身ニ向テ重テコレヲ覆フ。次ニ、淨巾ヲ疊ミ鉢上ニ安ジ、次ニ、匙筋帶ヲモテ淨巾ノ上ニ安ジ、次ニ、鉢拭ヲ展テ匙筋帶ノ上ニ覆フ。次ニ、左右ノ手ヲ以テ、左右ノ帕角ヲ取テ、鉢盂上ノ中央ニ結ブ。結ブ処ノ帕角ノ兩端ハ、同ク右ニ

垂ルナリ。鉢盂ヲ複ミ畢テ合掌シ、默然トシテ坐ス。コノ時、聖僧侍者マツ座ヲ起チ、下牀問訊シ合掌シテ堂ニ入り、聖僧ヲ問訊シ罷テ、槌ノ西辺ニ到テ、槌ニ向テ問訊シ、又手シテ且ク住持大衆ノ鉢ヲ複ミ了ルヲ待テ、槌ヲ打コト一下シ合掌シテ複子ヲ槌上ニ覆ヒ畢テ、又問訊シテ身ヲ聖龕ノ後ニ避ク。槌声ヲ聞テ、大衆食訖ノ偈ヲ想念シテ云。飯食訖已色力充。威振十方三世雄。回因転果不忘记。一切衆生獲神通。維那処世界梵ヲ唱フ。大衆合掌シテ聞ク。稽首礼ニ至テ、普同低頭ス。二侍者入堂シ、龕後ヲ經テ、住持ノ前ニ到テ鉢ヲ持シ、卓ヲ退ケ同時ニ門ヲ出テ祇候ス。スナハチ住持椅ヲ起チ、聖僧ニ問訊シテ出堂ス。粥罷早參ナケレバ、放參鐘ヲ三下ス。齋罷ハ、別ニ放參ノ式アレバ、スベテ打セズ。大衆両手ニ鉢ヲ擎テ位ヲ起チ、順ニ身ヲ転ジテ挂搭單ニ向ヒ、左手ニ鉢ヲ托シ、右手ニ鉤ヲ挂ケ、然シテ後、合掌シテ順ニ身ヲ転ジ、牀縁ニ向テ安詳トシテ鉢ヲ下リ、鞋ヲ著テ問訊ス。コレハ、上下肩問訊スルナリ。大衆ノ出堂前ノ如シ。鉢位ノ略圖ハ僧堂規一卷廿五丁小清規下卷廿丁トニ図樣ヲ出セリ。

述曰。敕規云。先輩ツマ嘗議。下牀問訊スルハ者謂諸寮与ハ大衆ニ普同問訊也。禪規云。粥後放參ナレバ即住持人出堂。スナハチ打放參鐘三下。如レ遇ニ早參ニ更不レ打レ鐘。早參アレバ、粥罷ニ焼香。侍者住持ニ窺テ、牌ヲ挂ク。

住持ノ指揮ニ依テ、寢堂或ハ方丈、法堂ニ坐椅ヲ設ケ、花炉燭ヲ備ヘテ莊嚴ス。時至テ、方丈ノ客頭行者法鼓ヲ三下ス。両序大衆一時ニ、ソノ処ニ集定ス。侍者集定ヲ見テ、住持ニ揖シテ報ズ。主人出テ跏坐ス。時ニ両序ノ上首二人相揖シテ出テ、当面ニ焼香シ位ニ帰ルトキ、維那行者ニ手磐ヲ打セテ大衆展具三拜シテ位ニ著ク。又ハ、タダ深く低頭問訊シテ位ニツク。侍者ハ住持ノ右側ニ立テ、大衆ノ著位了テ拜シテ位ニ著ク。開示了テ大衆速礼三拜シテ散ズ。晩參モ同式ナリ。モシ、放參ナレバ、三下鐘ノ後殿鐘三会上殿諷經ス。

述曰。支那ノ叢林ニハ、朝課晚課ト称シテ一衆雷同諷經スルコト諸清規ニ見ヘズ。永祖ノ時マデモ、只管打坐ノミ本朝。後宇多天皇建治弘安ノ間、蒙古キタリ冠スルノコロ、諸山ニ敕命ヲ賜フテ、国家ノ安泰ノ祈ラセラル。ソノ時ヨリ晨昏ニ諷經スルコト始ルト云。東福開山ノ時ハ、日中ニ尊勝陀羅尼七返ヅ、誦セラレシトナリ。瑩山ノ時ニ至リテハ、専ラ諷經セシト見ヘタリ。瑩規云。如^ニ粥次大殿及諸堂諷經^ノ者三下鐘。次又打^レ鐘トアリ。小規下卷^{三十二}ニ、三時諷經ノ説アリテ詳ナリ。近古、明僧來朝シテ团形ノ木魚ヲ以テ經呪ヲ擊節セシヨリコノカタ、一字ニ一下ヅ、擊ユヘニ、句読混濫シテ義理ヲ失ヘリ。陀羅尼ハ、二字アルヒハ三

五字合成シテ一義ヲ成スルモノ故ニ、傍ラニ二合三合トイヘル註ヲ加ヘタリ。マタ、コノ陀羅尼ハ、イクバク句ニ読トイヘル定リアルユヘニ、マタ一二三等ノ字ヲ以テ分テリ。タトヘバ、大悲呪ヲ読ニ、南無^二合敬礼ノ義、喝羅怛那哆羅夜耶^三合三寶ノ義、南無^二合敬礼ノ義、阿唎耶^四合聖ノ義、婆嚧羯帝湿嚧囉耶^五合觀自在ノ義、菩提薩埵婆耶^六合覺有情ノ義、摩訶薩哆婆耶^七合大有情ノ義、摩訶迦盧尼耶^八合大悲者ノ義、然レバ敬礼三寶敬礼聖觀自在覺有情大覺有情大悲者ト云義ニナル。モシ、四十二字ニノベテ、一字ニ一下ヅ、擊テヨメバ、上ノ義ヲ失却スルナリ。近來維那ガ南無喝羅怛那ト挙唱スレバ、一衆雷同シテ哆羅夜耶。南無阿唎耶。婆嚧羯帝。湿嚧囉耶。ト句読ス。コレヲ訳スレバ、敬礼三寶。敬礼聖。觀自在。トナル。カクノ如クニナリテ、句義トモニ成セザルノミニアラズ。菩薩ノ尊体ヲ截テ、兩段トナスノ罪アリ。深ク思ヒ慎テ改テヨシ。

參後或ハ諷經、後ニ堂司行者堂前ニ坐禪牌ヲ挂テ鳴版三下。コノ間ニ、大衆搭袈裟集堂被位ニ就テ面壁、次ニ、首座寮前ニ打版シテ首座入堂、次ニ、方丈前ニ打版シテ住持入堂、ソノ焼香巡堂毎ノ如シ。住持椅ニ就テ、侍者モ榻ニ坐ス。厨下ノ火版三下マデ坐禪ナリ。

述曰。永規云。早晨坐禪掛^ニ坐禪牌^一。余時坐禪不^レ掛^ニ坐

禪^チ牌^{パイ}トアリテ、粥^{シユ}後^ゴバカリ掛^ケ牌^{パイ}ス。瑩^{エイ}規^キ、敕^チ規^キ等ミナ粥^{シユ}後^ゴバカリ掛^ケ牌^{パイ}ス。今^{イマ}時^{トキ}、坐^ザ禪^{ゼン}コトニ掛^ケ牌^{パイ}スルハ道理^{ドリ}ナシ。マタ首^{シュ}座^ザハ、坐^ザ禪^{ゼン}ヲツカサドレバ牀^{シヤウ}縁^{エン}ニ向^{ムク}テ坐^ザスト。永^{エイ}規^キニ見^ミユ。僧^{ソウ}堂^{ドウ}ニテ維^イ那^ナハ、外^{ガイ}堂^{ドウ}ノ上^{ウヘ}間^{カン}ニ坐^ザス。内^{ナイ}堂^{ドウ}牀^{シヤウ}縁^{エン}ニムクベキ様^{サマ}ナシ。永^{エイ}規^キ云^ク。間^{カン}ニ庫^コ下^カ火^カ版^{バン}鳴^{ネイ}。大^{ダイ}衆^{シュウ}同^{ドウ}時^{トキ}合^カ掌^{サウ}乃^ノ坐^ザ禪^{ゼン}罷^バ也^ヤ。トアリテ、飯^{イハ}熟^{ジュク}シテ火^カヲヒク時^{トキ}ニ鳴^{ネイ}ス。ユヘニ火^カ版^{バン}ト云^クナリ。

抽^{シュ}解^ゲ經^{キヤウ}行^{キヤウ}ハ意^イニ随^{ズイ}フ。經^{キヤウ}行^{キヤウ}ハ一^{イチ}息^{シツ}半^{ハン}歩^ポ、歩^ポノ量^{リヤウ}跌^{テツ}ニ過^カストノ祖^ソ訓^{クン}ナリ。經^{キヤウ}行^{キヤウ}処^{ショ}ハ、廊^{ロウ}廡^ウノ下^カ宜^イシ。抽^{シュ}解^ゲハ坐^ザシナガラ袈^カ裟^サヲ卸^{オシ}シ、被^ヘ巾^{キン}ノ上^{ウヘ}カ函^{コン}櫃^クノ上^{ウヘ}ニ安^{ヤス}ジテ下^カ牀^{シヤウ}ス。

述^{シュツ}曰^{イハレ}。抽^{シュ}解^ゲハ抽^{シュ}身^{シン}解^ゲ脱^{ダツ}ノ謂^{イハレ}ニテ、列^{リツ}衆^{シュウ}ノ中^{ナカ}ヨリ独^{ドク}リ身^{シン}ヲ抽^{シュ}テ解^ゲコトナリ。禪^{ゼン}敕^チノ二^ニ規^キニ見^ミユ。櫟^{リツ}規^キ云^ク。經^{キヤウ}行^{キヤウ}香^{カウ}將^{サウ}完^{カン}魚^イ一^{イチ}鳴^{ネイ}齊^{サイ}抽^{シュ}解^ゲ歸^キ位^イトイヘルガモトニテ、今^{イマ}様^{サマ}ハ魚^イ一^{イチ}鳴^{ネイ}シテ經^{キヤウ}行^{キヤウ}ヲ息^{シツ}ルヲ抽^{シュ}解^ゲト心得^{シンパツ}タガヘルナリ。

抽^{シュ}解^ゲヲ、マタハ抽^{シュ}脱^{ダツ}トモイフ。大^{ダイ}慧^{スイ}武^ブ庫^コ入^ニ延^{エン}寿^{シユ}堂^{ドウ}東^{トウ}司^シ一^{イチ}抽^{シュ}脱^{ダツ}ストアルニテ知^チルベシ。坐^ザ禪^{ゼン}ノ時^{トキ}ハ、抽^{シュ}解^ゲハ經^{キヤウ}行^{キヤウ}アルヒハ換^{カン}衣^イ、マタハ大^{ダイ}小^{シヤウ}便^{ベン}利^リノ為^{タメ}ニス。委^イクハ堂^{ドウ}規^キ一卷^{イチ}十^{ジュウ}六^{ロク}同^{ドウ}考^{コウ}訂^{テイ}一卷^{イチ}九^クニ弁^{ベン}ズルガ如^ノシ。但^タシ、經^{キヤウ}行^{キヤウ}ニ袈^カ裟^サヲ披^ヒスルヤ否^{イナ}ヤハ古^コ來^{ライ}タシカナル明^{メイ}文^{ブン}ナケレバ、有^{アル}人^{ニン}ハ袈^カ裟^サヲ披^ヒシテ經^{キヤウ}行^{キヤウ}スル理^リ允^{イン}当^{トウ}トストイヘリ。經^{キヤウ}行^{キヤウ}トハ、經^{キヤウ}トハ經^{キヤウ}ハ機^キ織^シノ糸^イヲ引^{ヒキ}ク經^{キヤウ}ニテ、經^{キヤウ}ノ如^ノクスグニユクユヘニ、經^{キヤウ}行^{キヤウ}ト云^ク。寄^キ歸^キ伝^{デン}云^ク。五^イ天^{テン}之^ノ地^チ道^{ドウ}

俗^{ソク}多^タ作^{サク}經^{キヤウ}行^{キヤウ}。直^{チキ}去^{キョ}直^{チキ}來^{キョ}唯^{タカ}遵^{ジュン}一^{イチ}路^ロ。釈^{シヤク}氏^シ要^{ヤウ}覽^{ラン}云^ク如^ノ布^フ經^{キヤウ}。故^{コト}曰^{イハレ}經^{キヤウ}行^{キヤウ}。コレソノ証^{シヤウ}ナリ。淨^{ジヤウ}祖^ソノ言^{ゴン}ク。僧^{ソウ}家^カ寓^ウ僧^{ソウ}堂^{ドウ}功^{コウ}夫^フ最^{サイ}要^{ヤウ}直^{チキ}須^{シュ}緩^{コン}歩^ポ。近^{キン}代^{ダイ}諸^{シュ}方^フ長^{チャウ}老^{ロウ}不^フ知^チ人^{ニン}多^タ也^ヤ。知^チ者^{シャ}極^{キョク}少^{シヤウ}。緩^{コン}歩^ポ以^{ヨリ}息^{シツ}為^{タメ}限^{ゲン}而^{シテ}運^{ウン}足^{ソク}也^ヤ。不^フ觀^{カン}脚^{キヤク}跟^{コン}。然^{シテ}不^フ仰^{オウ}而^{シテ}運^{ウン}歩^ポ也^ヤ。傍^{ボウ}觀^{カン}見^ミ之^ノ只^{タカ}如^ノ立^{リツ}一^{イチ}処^{ショ}也^ヤ。云^ク云^ク永^{エイ}規^キ弁^{ベン}道^{ドウ}法^フ上^{ウヘ}卷^{クワン}廿^ニ六^{ロク}ニ、步^ポミ様^{サマ}ノ親^{シン}訓^{クン}アリ。拝^{ハク}看^{カン}シテ、仏^{ブツ}祖^ソ正^{テイ}伝^{デン}ノ家^カ訓^{クン}ヲ知^チルベシ。今^{イマ}時^{トキ}ノ如^ノク大^{ダイ}衆^{シュウ}一^{イチ}同^{ドウ}ニ經^{キヤウ}行^{キヤウ}スルコト、古^コ代^{ダイ}ニナキコトナリ。マタ、堂^{ドウ}ヲ遶^{リヤウ}ルハ遶^{リヤウ}堂^{ドウ}ナリ。經^{キヤウ}行^{キヤウ}ノ字^ジ義^ギニ合^カハズ。

火^カ版^{バン}鳴^{ネイ}テ、大^{ダイ}衆^{シュウ}一^{イチ}時^{トキ}ニ合^カ掌^{サウ}シ、下^カ牀^{シヤウ}シテ掛^ケス。堂^{ドウ}司^シ行^{キヤウ}者^{シャ}坐^ザ禪^{ゼン}牌^{パイ}ヲ収^{シュ}ム。住^{ジュ}持^チ首^{シュ}座^ザ諸^{シュ}寮^{リヤウ}ノ衆^{シュウ}出^{シュツ}堂^{ドウ}先^{セン}ノ如^ノシ。

述^{シュツ}曰^{イハレ}。今^{イマ}様^{サマ}ニ火^カ版^{バン}鳴^{ネイ}トヒトシク直^{チキ}堂^{ドウ}ノ人^{ニン}坐^ザ香^{カウ}ノモエサシヲ聖^{セイ}僧^{ソウ}ニ献^{ケン}ズル等^{トウ}ノ儀^ギ式^{シキ}永^{エイ}瑩^{エイ}兩^{リヤウ}規^キニナシ。モトヨリ、モエサシヲ仏^{ブツ}ニ献^{ケン}ズルハ一向^{イキヤウ}非^ヒ法^フナリ。

次^ジニ、行^{キヤウ}者^{シャ}火^カ鈴^{リヤウ}ヲ振^{シン}テ巡^{シン}廊^{ロウ}シ、厨^{シュ}前^{ゼン}ニ三^{サン}鼓^コ。次^ジニ齋^{サイ}鐘^{シュウ}ノ後^ゴニ、諸^{シュ}尊^{ソン}ニ上^{ウヘ}供^{コウ}ス。次^ジニ、殿^{テン}鐘^{シュウ}三^{サン}會^エ禺^ウ中^{チュウ}ノ諷^{フウ}經^{キヤウ}經^{キヤウ}呪^{シュ}、住^{ジュ}持^チ人^{ニン}意^イニ随^{ズイ}フ。本^{ホン}尊^{ソン}并^{ヘイ}二^ニ祖^ソ師^シ及^キ薦^{セン}亡^{マウ}ニ餉^{キヤウ}供^{コウ}ノ諷^{フウ}經^{キヤウ}アレバ、コノ時^{トキ}ニ行^{キヤウ}ズ。

述^{シュツ}曰^{イハレ}。禺^ウ中^{チュウ}ノ諷^{フウ}經^{キヤウ}ハ、支^シ那^ナニ例^{レイ}ナシ。永^{エイ}規^キニモ見^ミヘズ。瑩^{エイ}規^キ云^ク。次^ジ鳴^{ネイ}三^{サン}大^{ダイ}鐘^{シュウ}、十八^{ジッパツ}聲^{セイ}是^シ称^{ショウ}三^{サン}齋^{サイ}鐘^{シュウ}。此^{コノ}間^{カン}就^ス大^{ダイ}殿^{テン}誦^{ソウ}三^{サン}尊^{ソン}勝^{ショウ}陀^ダ羅^ラ尼^ニ七^{シツ}返^{ハン}トアリ。モト尊^{ソン}勝^{ショウ}陀^ダ羅^ラ尼^ニ七^{シツ}返^{ハン}ヲ誦^{ソウ}スルコトハ、東^{トウ}福^{フク}開^{カイ}山^{サン}ヨリ始^{ハジメ}マルト雜^{ザツ}談^{タン}集^{シュツ}ニ見^ミヘタリ。是^{コノ}ヲ

聲規ニ云日中諷經トアルハ錯ナリ。聲規ハ、後人ノ妄添多シ。日中ヲ過テ齋食スルハ非法ナレバ、齋時ハ必定日中前ナリ。故ニ禺中諷經ト称シテヨシ。字書ニ日隅ニアリ。故ニ禺ト云トアリテ、世俗ノ己ノ時ニ当ル次ニ、長版集衆典座九拜等粥時ノ儀ノ如シ。

飯後衆寮ニ茶版一通、アルヒハ方丈ニ茶鼓一通ニテ喫茶。述曰。敕規ニ寮前板鳴、歸寮ト見ユ。総ジテ方丈ノ茶ニハ鳴鼓、諸寮ノ茶ハ鳴板ナリ。禪規云。次開堂頭或庫下擊鼓、或諸寮打板者衆僧赴茶也。ト見ユ。

茶罷未時ハ、衆寮看読アリ。亦ハ看經トモ称ス。藏殿ナレバ藏主ノ所管、仏殿ナレバ知殿ノ所管、衆寮ハ寮元寮主等ノ所管ナリ。今、衆寮ノ看読ニハ齋後ノ茶罷ニ、寮主亦ハ副寮又ハ望寮等、聖像前ニ花炉燭ヲ備ヘ、衆寮ノ凡案ヲ排弁シテ後ニ静牌ノ寮前ノ柱ノ外面ニカケ、時ヲ伺テ寮前ノ小鐘長打一通ス。時ニ僧堂并ニ諸寮ノ衆著衣入寮シ、聖僧ニ問訊或ハ礼拝シテ案位ノ方ニ向テ揖シテ位ニツク。揖ハ上下肩ヲ一時ニ揖スルナリ。看読了ルマデ衆ミナ默然ス。静牌ハソノ為ナリ。仏書ノ外、一切ノ外書ヲ看ズベカラズ。案ニ臂ヲツクベカラズ。少間案ヲ離ル、時モ經ヲ開キ置ナガラ起ベカラズ。經ヲ蓋テ起ベシ。卸セル袈裟ヲ經ノ上ニ安ズベカラズ。声ヲ出シ、他耳ヲ喧スベカラズ。案上ニ巻ト香合ヨリ外ノ物安ズベカ

ラズ。經ハタゞ一面ヲノブ。長ク展ザレ。他人ノ案ヲ窺フベカラズ。看經ノ窓外ニテ、話スベカラズ。坐參ノ板ノ初打ヲ聞テ、各自ニ回向ヲ念ジ、經ヲ収メ、合掌シテ聖像ニ問訊シテ退出ス。モシ、公界仏事ノ看經ハ、經目定リテ一同ナリ。衆寮ノ看読ハ、各自ノ趣向ニテ持シ出ベシ。案位ハ別ニ図アリ。モシ施主アリ。又ハ、聖節ノ式ハ祖師ノ看經ノ卷ニ詳ナリ。

述曰。宋朝以来坐禪ハ、悟ヲモテ專要トスト云ノ風儀ニ墜テヨリ看読ノ古儀ヲ失シ、剩ヘタマタマコ、ロザシノモノアレバ、却テ彼ヲ毀謗ス。憐ムベシ。百丈ハ叢林ノ開闢ナリ。ソノ清規ハ、唐ト俱ニ亡フトイヘドモ、幸ニ長蘆ノ慈覺、百丈ノ遺範ヲヒロイアツメテ禪苑清規ヲ述セラル。諸頭首法ノ藏主章中、委悉ニ看読法ヲ教示セラル。マタ、施主アリテ衆ヲ請シテ藏經ヲ看セシムルコトハ、看藏經章ノ下ニ詳ニ垂誨セラル。マタ、永祖寮中規ノ末上ニ、応看大乘經并祖宗之語句自合古教照心之家訓トノ親訓アリ。慕古ノ者、豈コレヲ忽ニスベケンヤ。ナヲ、仏教卷、看經卷ナドヲ拝看シテ、祖宗ノ深密ナルコトヲ知ルベシ。衆寮看読牀ノ図ハ、僧堂規一卷十二ニ出セリ。但シ、古時ノ衆寮ハ今ト別ナリ。依テ今時ノ衆寮ニテ案位ヲ排列スルノ図ハ、僧堂規一卷三十二ニ指南アリ。

申ノ始ヨリ嘯時ナリ。堂司行者首座ニ白シ、堂前ニ坐參ノ牌ヲ掛テ打板ユルク三下、看読ノ大衆衩衣ニテ帰堂シ、被位ニ著テ面壁ス。袈裟ハ、袱ミテ被ノ上カ函櫃ノ上ニ安ズ。次ニ、首座寮前ノ板三下、首座衩衣ニテ入堂焼香シ、巡堂セズ位ニ就テ坐ス。マタ、巡堂スル法モアリ。

首座ノ坐堂ヲ告ル為ニ、堂司行者諸寮前ニ打版三下、寮衆衩衣ニテ入堂シ、著衣シテ坐ス。堂衆モ一時ニ著衣軀身シテ相向テ坐ス。次ニ、方丈前ノ版三下シテ住持入堂著椅ス。モシ、晚參アレバ、コノ後方丈行者方丈前ノ鳴鼓三下、住持帰方丈シテ、後ニ首座大衆ヲ領シテ晚參ニ赴ク。

述曰。古規ニ早晚參アリ。禪規云。堂前鳴ニ小鐘子三下乃放ニ早參也。如不ニ放參ニ堂上鳴鼓者陞堂也。又云。至晚堂前鳴ニ鐘三下者放ニ晚參也ト。敕規六卷坐參大坐參ノ式ヲ出スハ、嘯時ノ坐禪ヲ坐參ト云。ソレハ晚參ガアルユヘニ、坐禪シテ散乱ヲ鎮テ後ニ聽法スル故ナリ。坐參章云。蓋古者每晚必參ニ住持以求ニ開示ニ故。率レ衆齊集坐待ニ鼓鳴ニ而往參。名曰ニ坐參ニ因ニ汾州地塞一昭公罷之遂有ニ放參之說ト。コレソノ的証ナリ。堂規ニ、未時若方丈前版鳴三会知レ有ニ法益一或隨意趣參或一衆趣參或衩衣或掛子隨人意トハ、コレマタ恐ハ後人妄意ヲ加ルナラン。コノ法益ハ、禪規ニハ請因縁ト

アリ。敕規ニハ請益トアリ。ミナソノ式アリ。隨意趣參ト云コトアルベカラズ。聽法ニ、衩衣掛子ト云コトイカバシ、掛子ハ五条ノ大略ニシテ、凡下ノ妄製ナリ。聽法ノ時、被スルハ非法ノミニアラズ。師家ニ対シテ無礼ナリ。

開示了テ帰寮喫湯、マタハ菓石、モシ住持入堂セズシテ晚參アレバ、コノ鼓鳴テソノマ、首座大衆方丈ニ上ル。モシ住持入堂セズシテ放參ナレバ、堂司行者方丈侍者ニ伺フテ、放參牌ヲ掛テ前門ノ簾ヲ上テ入堂シ、聖僧ニ問訊シ、亦首座ニ問訊シ、又手低頭シテ低声ニ和尚放參ト告グ。次ニ、聖僧ノ正面ニ立テ合掌シ、声ヲ引テ放參ト高ク唱テ大衆ニ告グ。次ニ、堂前ニ出テユルク放參鐘ヲ打コト三下、大衆坐シナガラ上下肩ヲ掛ス。寮衆ハ帰寮シ、堂衆ハ放參後ノ諷經ノ殿鐘ヲマツ。若住持在堂ニテ放參ナレバ、堂司行者直ニ住持ニ白シテ、放參牌ヲ掛テ後、右ノ式アリ。三下鐘ノ後、住持下牀聖僧ニ掛シテ出堂シテ後、大衆ミナ下牀シテ同掛ス。諷經了テ帰堂ス。コノトキ眠單ヲ展テ、下帳シテ喫湯又ハ菓石。

述曰。仏在世ニ非時漿ヲユルサレシカ。今ノ禪林ノ点湯ナリ。今ゴロ、庫前ノ雲版アルヒハ、拍子木五下ニテ菓石ヲ行ズルノ式ハ、諸清規ニモ堂規ニモ藥規ニモ見ヘズ非法ナリ。菓石ハ禪林ノ私設ニテ、仏製ニナキ

事ユヘニ、食物ノ名ヲ忌テ藥石ト名ヅケテ形枯ヲ療ズル藥ト云意ニトレリ。宋朝ニハ、藥石ノコト見ユレドモ、毎日トハナシ。元朝ヨリハ、晚粥トテ毎日ニナレリ。祖師モ雪時ヲ許容セラル。コレハ、越山ノ深雪ハ余所ト格別ニテ、寒氣ニタヘネバ弃道ニサワル故ニ、褻服衣ニ擬ストノ尊意ニテ、常ニハ許サレズ。

日入テ、二刻半二更鼓三通昏鼓トモ云。夜シ、初更ノ一点ヲ打テ大鐘三會ス。

述曰。瑩規ニハ戌時衆寮前、版鳴、三下トアレドモ、永規ニハナシ。堂規モ永規ニヨリテ坐禪版ヲ鳴スコトナシ。小規ニモ前鼓後鐘及背昏不鳴ニ坐禪版者一依ニ大規ニ也ト見ヘタリ。

一會ニ、大衆搭袈裟入堂面壁、二會ニ首座打袈裟入堂、三會ニ住持入堂、首座住持ノ焼香巡堂向ノ如シ。二更ノ二点三点ノコロ、打版三通シテ夜坐了ル。定鐘十八声ノ後ニ振鈴シテ後、次ノ点鳴ス。合山打眠ス。袈裟ハ、袱ミテ函櫃ノ上ニ安ズルナリ。

述曰。禪規、大規トモニ定鐘ヲ鳴スコトナシ。大規ハ、タゞ版ヲ鳴スノミ。今定鐘ヲ鳴スモノハ、敕規ニ依ル堂規考訂ニ云。生死事大ト唱ヘテ打版スル。巡照ハ明規ナリ。明朝ニハ、三八念誦ヲシラヌユヘニ、巡照ノ警衆アリ。然モ警衆モ毎日ナレバ、却テ常規トナリテ

激念感動セヌユヘニ、百丈以来三ト八トニ無常ヲ白セシムトアリ。今ハ禪規ヲ根本トシテ、三八ノ念誦アレバ、コノ巡照ヤメテヨシ。袈裟ハ日用牀縁ノ護淨ノ処ニ安ズ。今ハ大規ニヨレバ、函櫃ノ上ニ安ズ。

僧堂日分行法次第畢

禪規略述卷下

月分行法次第

默室纂集

初一日

方丈内賀 祝聖^{上堂} 諷經

應供諷經 大衆礼賀 巡堂点茶

本尊上供 宣読清規

述曰。堂規二卷^初ニ、方丈内賀ヨリ始テ大小寺院月分通ジテ行ジ安キ様ニ書レタリ。近時朔望オヨビ四節ニ、仏祖ニ礼賀ノ拜ハ、諸清規ニ見ザレバ、恐クハ明規ヨリ始マルカ。堂小二規トモニ省カレタリ。

祝聖上堂法式ハ、結夏ノ処ニ出ス。モシ上堂ナケレバ、

大悲呪消災呪ニテ諷經ス。回向ハ、堂規二卷^{廿五}ニ出。

祝聖巍巍金相。堂堂覺皇。三界独尊。万靈皆仰。大日本

国某道某州某郡某処某山某寺住持伝法沙門某^{月且月望書}

令辰謹集合山清衆恭趨大仏宝殿諷誦大円満無碍神呪消災

妙吉祥陀羅尼 集鴻因端為祝延 今上皇帝聖寿無疆無量

寿仏

述曰。小規上卷^{三十}ニ回向文出ヅ。堂規ト同シ。但今

上皇帝聖寿万安金剛無量寿仏仁王菩薩摩訶薩摩訶般若

波羅密トアルハ、幻住規^{廿六}ニ依ルモノカ。今時用ル処ノ心性正覺云云瑩規上卷^{十三}ニ見ユ。瑩規ニ応供諷經アリ。堂規モ瑩規ニ同ジテ、二卷^{廿六}ニ回向文出ヅ。

應供^向仰翼三宝伏垂昭鑑山門毎遇斯辰合山清衆諷誦^{所集功}

德回向十方常住三宝果海無量賢聖十六大阿羅漢及君屠鉢

歎尊者各々常隨眷属九十九億諸大阿羅漢等無量德海所冀

三明六通回末法於正法五力八解導群生於無生山門之二輪

常転国土之三災永消。

述曰。朔ゴトニ、應供諷經ノ次ニ般若ヲ転読スル寺モ

アリ。転読ソ作法ハ、正月元日ノ下ニ出ス。回向ハ、

堂規ニ應供、回向ノ次ニ文ヲ出セリ。

大衆礼賀。諷經罷ニ、両序大衆方丈ニ上ツテ礼賀アリ。

上首兩人焼香シ、位ニ帰ルトキ、大衆三拜ス。行者小磬

打ベシ。

巡堂点茶。今日僧堂ニ巡堂点茶アリ。略ノ時ハ、大衆礼

賀ノ拜了テ、行者茶鼓一通ス。行式ハ堂規二卷^{丁二}ノ如シ。

述曰。モシ僧堂礼賀シテ巡堂点茶アレバ、サキノ方丈

ノ茶ナシ。

本尊上供。禺中ニ殿鐘ヲ鳴シ、大衆上殿諷經ス。宣読清

規。齋罷ニ寮元観音前ニ装香点燭シ、宣読牌ヲ衆寮前ニ

掛テ寮前ノ版ヲ鳴スコト三通、大衆袈裟ヲ搭テ衆寮ニ赴

キ、案位ニ就テ喫茶ス。茶了テ寮首座衆寮清規オヨビ封

大已法ヲ宣読ス。宣読了テ大衆牀ヲ下リテ問訊シテ退ク。

述曰。小規下卷^{三十四}ニ高祖ノ紀年録ヲ引テ云ク。建長

元年己酉正月十一日。高祖撰ニ衆寮清規ニ告衆云。今後
 渭月朔十一日廿一日寺僧輪次預設湯菓ニ兩班諸位。勤
 舊新到沙弥就ニ衆寮。湯菓畢寮首座講レ之大衆聴レ之云云
 古教照心ノ家訓ナレバ、上一中一下一ニ宣誦シテヨシ。
 初二日

入室 瑩規ニ、コノ日入室一月六度ナリ。

述曰。堂規二卷^{十一}ニ入室ノ法ハ、寢堂ニ祖像ヲ掛テ、
 華炬燭ヲ備ヘ、マタ室ノ正面ニ住持ノ椅ヲ設テ、花炬
 燭ヲ備フ。下堂ノ三下ヲ止テ、方丈前ノ鼓三下ス。早
 參ト同ジ。マタ、住持并ニ大衆祖前ニ各々焼香三拜ト
 アリテ云ク。祖像ハ、支那ノ清規ニハ達磨ナリ。今ハ
 永祖ノ像ヲ設クベシト。委ク図牌ヲ出ザル。小規中卷
 三十ニハ祖像ヲ安ジ、焼香三拜ノコトナシ。打鼓アル
 四^丁ニハ打板アルヒハ入室ノ牌ヲ敲キ、大衆ヲ警集ストア
 リ。ソノ余ノ進退兩規オホムネ同ジ。瑩規上卷^八ニハ、
 即入室鼓鳴者大衆齊上^三方丈焼香三拜ト見ヘ、同卷^{十一}
 ニハ、入室鼓法堂。西鼓長打三下。或堂前^ニ叩^ニ入室牌^ニ
 或打^{ハスル}寮前^ノ三下トアレバ、三規ヲ照看シテ宜キニ随
 フベシ。

初三日

庫堂諷經 僧堂念誦 巡堂点湯

述曰。堂規二卷^三コノ日、庫堂諷經ヲ勤ム。小規上卷

三十二、五日ニ庫堂諷經ス。

僧堂念誦 齋罷ニ、維那住持ニ白シ、堂前ニ牌ヲカク。

侍聖聖僧前ニ花炬燭ヲ嚴備ス。念誦罷必ズ放參ヲ打ス。

述曰。三八念誦ノ法、堂規二卷^{十三}小規上卷^{三十}兩規

全ク同ジ。堂司行者衆寮前ヨリ順ニ打版シテ、方丈前
 ニテ終ルモノハ、校定規ニヨレリ。瑩規ハ、先ヅ方丈
 前ノ版ヨリシテ、逆ニ打版ス。コレハ敕規ヲモトトス。
 備用ハ、マヅ照堂ノ板ヨリス。上件ノ如ク順逆ノ打版
 諸規一同ナラズ。今ハ、校規ニ依ル。今時三八ノ念誦
 ニ、大鐘ヲ七下ト数ヲ定鳴スハ、トリチガヘナリ。七
 下ハ、主人ヲ迎ル僧堂ノ小鐘ナリ。念誦序文、瑩規ニ
 出。

三念 皇風永扇帝道遐昌仏日增輝法輪常轉伽藍土地護法安
 誦文十方施主增福增慧為如上緣念^{手磬一下ニテ、}
 人十方施主增福增慧為如上緣念^{十仏名ハ同音。}

八念 白大衆如来大師入般涅槃至今日本何年何甲子已得幾
 年是日已過命亦随滅如少水魚斯有何樂衆等当勤精進如
 救頭燃但念^ニ無常^ニ慎勿^ニ放逸^ニ伽藍土地護法安人十方施主
 增福增慧為如上緣念^{上ニ同}。

巡堂点湯 巡堂ノ時ノ献湯ハ、僧堂ニテモ方丈ニテモ行
 フ。

述曰。念誦罷巡堂并寢堂点湯諸規差異スルコト小規下
 卷^{四十三}ニ弁アリ。云ク。禪苑念誦時。無^下請客侍者請^ニ

寢堂湯ヲ法ヲ。但云掃寮喫湯。三規有初住持入堂時侍者巡過兩序前請湯法云云然バ、今堂規ニ請客侍者頭首ト知事トニ問訊シテ請ヲ茶ノ陳請シテ方丈和尚請念誦罷堂内獻ヲ茶ト出ルハ、三規ニ依ルモノカ。堂規ニモ下侍者二人出班。一人問訊都寺、一人問訊首座念誦罷報巡堂及点湯ト見ユ。モシ、方丈ニテ獻ヲ茶アレバ、請客ノ陳語ニ方丈和尚請念誦罷寢堂獻ヲ茶ト問訊ノ式、先ノ如シ。堂規二卷十七ニ出ヅ。

初四日

淨髮 掃地 開浴 達祖獻湯

淨髮ハ、浴主淨髮牌ヲ衆寮前ニ掛テ打鐘一通。僧堂ノ衆ミナ衆寮ニテ淨髮。諸寮モミナ淨髮ス。

述曰堂規ハ、副寮ノ人面盆髮板剃刀砥石ヲ弁備シ、寮前ニ鳴鐘一通ス。小規ハ、衆寮直日ノ者預メ砥石等ヲ寮内ニ排ストアリ。何レモ剃髮ハ衆寮ナリ。

掃地 淨髮牌ヲ卸ヲ見テ、鑑寺掃地牌ヲ殿前ニ掛、諸寮同時ニ普請ノ鼓一通シ、合山ノ大衆寺内掃地ス。各々ノ寮辺ハ、ソノ寮衆掃地ス。

述曰。禪規云。普請鼓打一會更ニ転通一也ト。小規上

卷三十云。然後淨髮庫司見下淨髮牌一畢覆住持一使下

行者告首座維那二分附堂司行者一掛普請牌於僧堂前上擊庫前鼓一會大衆各就普請処一ト。夾註シテ云。如下

臨時有就別処ニ普請仍用小片紙一貼牌上ニ云某時某処凡除守寮直堂老病ニ外並宜齊赴一普請僧衆一長ニ擊木魚一通普請行者二通トスベテ、大普請ノ僧衆行者ミナ集ルニハ鼓一通長打ナリ。考訂四卷十二ニ委ク弁ズ。

開浴 掃地牌卸ヲ見テ、浴司浴室ニ開浴牌ヲカク。

述曰。開浴法考訂三卷十二引禪規浴司章云齋後打版同施主入堂内焼香礼拝請聖入浴良久打疊鳴鼓請衆救規云齋罷浴頭覆維那首座住持一畢鳴鼓三下聖浴桶内皆著少湯焼香礼拝想請聖浴次第巡廊鳴板偏鳴鼓第一通僧衆入浴ト云云小規上卷三十二、開浴法鳴鼓三下、浴司入僧堂焼香礼拝請聖入浴次巡廊鳴板各三下偏鳴鼓トアルハ、引処ノ禪救ノ二規ニ依ラル。マタ、入浴資次牌ハ同卷十四ニ出テ、住持ハ第三會ニ入浴ス。備規知浴章ヲ引テ云。古來住持例在三鼓ニ入浴ス。用屏風一遮行者一也云云。禪規ハ、前兩會衆僧入浴後一會行者入浴、末後住持知事人入浴トアリ。救規ハ、第一通衆僧入浴、第二通末頭首入浴、第三通行者入浴。此時住持方入以屏風遮隔而浴云云。考訂ニ二規ヲ引テ云。コレニヨレバ、禪規、救規共ニ、住持ハ衆僧ノ後ニ入浴ス。コレハ、浴室ガ風爐俗ニ云、ナラ風呂ナリ。ナルユヘニ、後ニテモ淨觸ノチガヒナシ。今時ハ、多ク浴斛ナレバ、多衆入浴ノ後

ハ湯濁ル。衆ノ後ニ堂頭ノ入ルベキ理ナシトテ、堂規
二卷^{二十}入浴資次ニ、第一鼓堂頭和尚ト出ザル。施主
アル時ハ、浴司アラカジメ善守大士ノ傍ニ薦亡ナラバ、
戒名祈禱ナラバ、寿牌ヲ置キ、旨趣回向ノ文ヲカキテ
前ニ備フベシ。入浴ノ衆、各々念経念呪シ、ソノ文ニ
テ回向スベシ。

達祖献湯 哺時ニコレヲ勤ム。

初五日

上堂達祖献供 コノ日上堂古例。モシ早参上堂ナレバ、
後唄ノ後、放参鐘ヲ打セズ。

述曰。古規ハ五参上堂ナリ。ソノ訣ハ、小規下卷^{六十}
ニ諸清規ノ証ヲ引畢テ云ク。今一月中六度。上堂且望
祝 聖寿余四日以激^三励学者^一即準^三校定等例^一以為^三五
参^二アリ。

達祖上供 禺中大悲呪ニテ諷経ス。回向文ハ堂規二卷^{二十}
ニ出。 七^十

^{達祖}淨法界身云云 所集功德上酬慈恩伏願少林妙訣既漏八
^{回向}万法藏之本源片岡奇蹤更護六十余州之遠裔壁觀紹統密々
家風久長綿々

初六日

請益一六ノ請益ハ、永平ノ古儀也ト。堂規ニアリ。

述曰。堂規上卷^{十一}ニ、斎罷侍者報^二維那^一掛^三請益牌^一

トアリ。マタ、法堂ノ鼓ヲ鳴シテ、方丈ニテ請益スル
等ノ文、前後不調ナレバ、信用シガタシ。堂規二卷^{二十}
ニ参学、モシ請益ヲ願フハ、先焼香侍者ニ稟ス。
侍者住持ニ通ズ。モシ允サバ、住持ノ指揮ニ因テ、時
ヲ定ム。多ク定鐘後ナリトアリ。鳴鼓ノコト見ヘズ。
小規ニ、スベテ請益ノコトナキハ、宣読清規アル故ニ、
繁ヲ省クモノカ。堂規月分ノ十一日ノ下ニ、今時コノ
日ニ、主人衆寮清規ヲ読ハ、請益ノ例ナリト見ユレバ
ナリ。

初七日

入室

堂規ニ、コノ日入室。凡ソ請益ノ翌日ハ入室ナリ。

初八日

僧堂念誦

初九日

淨髮 普請 開浴

初十日

粥罷上堂

十一日

請益

今時、コノ日ニ主人衆寮清規ヲ読ハ、請益ノ例ナリ。

十二日

入室

コノ日、入室普説ト瑩規ニ見ユ。

述曰。瑩規上卷^{十一}ニ普説ノ作法ヲ示シテ云ク。或ハ、

三八ニ普説アリ。或ハ時候サダマラズ。主人ノ意ニア

リト堂規二卷^{二十}行式ニ出、考訂三^{十二}云。普説ノ作法

ハ、校備救瑩共ニアリ。但シ、備規云。洞下尊宿毎

遇^三朔望^二衆寮設^レ位^ニ為^ル衆普説。コノ洞家ノ尊宿トハ、

真歇宏智ヲサスカト云。告香普説ハ、マタ別ノ作法

アリ。

十三日

僧堂念誦

十四日

淨髮 掃地 開浴

十五日

方丈内賀 祝聖^{上堂} 鎮守諷經^{諷經}

本尊上供 行布薩

述曰。行法并ニ初一日ト同ジ。コノ間ニ鎮守諷經アリ。

堂規二卷^{廿六} 回向文出。

鎮守^{神功} 回向神功浩々。聖德昭々。凡有禱祈。必蒙感応。仰冀聖

聰。俯垂昭鑑。山門毎遇斯辰合山清衆肅詣靈祠諷誦^經所

集殊勲回向。当山鎮守^{神某}伊勢大神宮白山妙理大権現稻荷

大明神当国^{宗廟} 一切護法 龍天善神福德無辺增加威光所冀

山門繁昌法輪常転無礙国家安泰。皇図鞏固傾三宝増光輝
四民弥豊富。

行布薩

述曰。堂規二卷^{廿二}ニ法式出。小規上卷^{五十二}ニ夾註シテ

云。広略二法有^二別記^一ト定テ、別行ノ記アルベシ。座

位ノ図ハ、下卷^{十三}ニ見ユ。

十六日

請益 天童獻湯

述曰。晡時祖堂ニ上テ天童淨祖獻湯。

十七日

天童獻供 東照宮獻供

述曰。禺中祖堂ニ上ツテ、天童淨祖獻供大悲呪ニテ諷

經。次ニ祠前ニ就テ、東照宮獻供大悲呪ニテ諷經ス。

堂規二卷^{廿八} 回向文出。

淨祖^{東照宮} 回向淨法界身云云所集功德上酬慈蔭伏願 南谷再回仏春

東海重啓法運曩祖之洪規播山沢遠孫之大法起風雷

回向^{東照宮} 仰冀昭鑑 俯垂感応 山門毎遇斯辰合山清衆諷誦^經

所集功德奉為 東照大権現增加威光所冀 四海昇平仏

日増輝於六十余内万姓安樂皇風永屬於億万斯年

十八日

僧堂念誦 寢堂点湯

十九日

淨髮 掃地 開浴

二十日

粥罷上堂

廿一日

請益

廿二日

入室

廿三日

僧堂念誦

廿四日

淨髮 掃地 開浴

廿五日

粥罷上堂

廿六日

請益

廿七日

入室 祖師宿忌

哺時、祖師堂宿忌諷經花炉燭ヲ嚴備ス。兩班ニテ住持焼香三拝献湯三拝掛湯三拝掃位ノ時、大磬三声シ、維那安樂行品ヲ挙シテ遶行回向了テ三拝。

廿八日

百八消災 祖師上供 僧堂念誦

粥後、仏殿ニ花炉燭洗米消災呪一百八返大衆同音回向ハ

堂規二卷^丁廿八ニ出。

百八消災^丁寶三寶俯垂昭鑑 山門毎遇斯辰合山清衆同音諷

誦熾盛光大威德消災吉祥大陀羅尼一百八遍所鳩善利回向

十方常住三宝果海無量聖賢本師釈迦牟尼如来過去娑羅王

如来大聖文殊師利菩薩大聖普賢菩薩天界列位護法諸天七

曜九執十二宮神二十八宿当年属星守宮守道一切聖造增加

威光所翼 水旱同順国土安寧火盜雙除 山門鎮靜僧衆内

外和合仏事晨昏勤修一切吉祥二嚴円満

祖師上供 禺中寿量品、或ハ大悲呪三返ニテ行道諷經。

回向ハ堂規二卷^丁三十二出。

淨法界身云云所集殊勲上酬慈蔭伏願 正偏宛轉鑑十方於

片心修証現成照三際于隻眼仏祖之要機田地穩密兒孫之衣

鉢家風延長

僧堂念誦

三十日

淨髮 掃地 開浴 行布薩

月ノ大小ニテ兩日開浴毎ノ如シ。行布薩モシ小尽ナレバ、廿九日ニ行ズ。

年分行法次第

正月

朔日。修正礼賀粥前ニ啓建ノ宣疏アリ。三日ニ満散ス。知殿預メ修正牌ヲ殿前ニカケ、大榜ヲ殿門ノ正面ニ掲グ。粥前方丈ノ内賀了テ、殿鐘ニテ集衆ス。両班常ノ如シ。住持跪爐シ維那宣疏ス。次ニ、或ハ祝聖上堂或ハ祝聖諷經、住持ノ椅ニヨル諷經ナレバ、直ニ恒規ヲ課誦アリ。上堂ナレバ、下座ノ次ニ礼賀ニテ、恒規ノ課誦ハ粥後ナリ。大衆礼賀、結夏ノ上堂罷ノ法ト同ジ。略ハ常ノ朔望ト同ジ。方丈ニ献茶アレバ、侍者行礼シテ大衆著座ノ後、庫司寿餅ヲ捧ゲテ薰香シ、住持ニ献ジテ三拜。余ハ常ノ朔望ト同ジ。モシ巡堂献茶アレバ、大衆上床ノ後、庫司入堂焼香寿餅ヲ薰香シ聖僧ニ献ジテ礼拝。次ニ住持ニ問訊シ、巡堂一通シテ前門ニ出テ後、行者餅子ヲ大衆ニ行ク。了テ献茶常ト同ジ。

述曰。上ノ行礼ハ、堂規三卷^初ニ依テ出ス。大榜ノ文ハ、同規四卷^{三十一}ニ出テ、啓建ノ宣疏ハ同卷^{三十一}ニ出。祝聖満散^二度トモ出班焼香スルハ、堂規ナリ。但シ、啓建ニハ宣疏ナク、満散ニハアリ。堂規ハ、啓満トモニアリ。小規ハ啓満トモニナシ。マタ、庫司献餅ハ山師ノ私設ニアラズ。堂規ニ、主人大衆入堂上^二牀^一円鏡菓子等兼^一堂前安排一衆坐定後上知事入堂焼香四処問訊

後円鏡菓子等行遍後点心等行^レ之トアルガモトナリ。円鏡トハ、今ノカバミモチノコトナリ。

人事ノ行礼并ニ致語、小規中卷^初ニ委出ス。初展ノ致語ニ云ク。此日改歲令辰謹伸^ニ嘉^ニ隆^ニ之儀^一ト。再展ニ云ク。即日孟春尚寒恭惟堂頭和尚尊体起居万福。

禺中転大般若或礼三千仏住持ノ意ニ由ル。本尊上供普門品ヲ挙シテ遵行。

述曰。転大般若ノ作法ハ、小規下卷^{三十}引蘇悉地羯羅經成就具支品中或復転読大般若經^一七遍或^二一百遍^一敕修旦望藏殿祝讚云旦望古来転藏祝寿云々自義ニ云ク。転読法吾門与ニ教家ニ略相似^ニ転者唯読^ニ每卷初中後数行而已^一トアリテ、回転スルコトナシ。堂規二卷^{十一}ニ、転読ノ作法ヲ出ザル。大磬一声ノ時、大衆励声ニ經号卷数訳師ノ号ヲ唱ヘ、經文数遍或^二要文或ハ理趣分ノ神咒或ハ二十空ヲ誦ス。回転七遍シ収置テ、次ノ卷ニ移ルトアリ。三日ノ間ニ、夜間ニ住持臨訪シテ各寮煎茶ス。朔日ニ鑑寺寮、二日ニ衆寮、共ニ大衆光伴ニテ夜話帰方丈ナリ。コノ祝茶ノコト古規ニ見ヘズ。故ニ行礼ノ式ナシ。今清規ノ茶法ニテ略式ス。云々

述曰。堂規ノ三寮祝茶ノコトハ、今様ニ準ゼラル。小規ニ、初日ノ斎罷侍者ノ請茶、二日ノ斎罷庫司ヨリ首座大衆ニ特為スル茶。三日ノ斎罷首座ヨリ後堂大衆ニ

特為スル茶アリ。

初三日修正ノ満散ナリ。修正ハ朔日二日ト同ジ。タゞ大衆九拜ノ後、住持跪爐、維那宣疏、禺中諷經了テ、大衆方丈ニ上テ満散ノ礼賀三拜シテ退ク。

述曰。満散ノ宣疏ハ、瑩規下卷^{三十}堂規四卷^{八十二}ニ出。

初七日、古來ヨリ洞下ニ法問ハジメアリ。今日五參上堂ノ首メナレバナリ。モシ、上堂アレバ、法問略ス。

初七日。新掛搭ノ僧留錫、或ハ行脚ハ、コノ日限リニ侍者鑑寺等旧住ノ人ニ就テ住持ニ白シ、許可ヲ得テ意ニ任ス。正七七日ニ小簿ヲ作テ諸寮ヘ回ス。衆各意趣ヲ名ノ上ニ記ス。イワユル留錫行脚、他行帰国請暇等ナリ。

初十日或ハ十一日。堂頭ヨリ首座ニ特為スル点茶置食ヲ行ズ。

述曰、今時、首座ノ罷參齋トイヘルモノハ、モト堂頭ヨリ首座ニ特為スル点茶置食ナリ。十日或ハ十一日二行ズ。堂規三卷^三夾註ノ別規トハ、同卷三十九丁ヲサス。小規中卷^{五十}丁置食煎点法ヲ出ス。夾註シテ云ク。本山例シテ結制前、解制前五日ニ、首座ヨリ堂頭ニ特為スル置食煎点ヲ行ズ。末派ノ諸寺ニモ、結解コトニコレヲ行フハ、中古ノ設ナリト。云々

十四日。嘯時土地堂念誦

述曰。禪規結夏章二卷^{五十二}、結夏ト解夏トノミ出ツ。

敕規七卷^{十二}四節土地堂念誦回向ノ文ヲ一所ニ列出ス。

堂規三卷^七ニ、当日ノ齋後維那念誦牌ヲ堂前ニ掛、知

事預メ香華ヲ備フ。紙錢紙馬心經ヲ堂ノ柱ニカケ、赤白黒三種ノ団子五盞ノ燈明ヲ献ズト。同規考訂四卷^九紙馬錢ヲ焼テ、鬼神ニ愛用セシムルノ引証アリ。小規

中卷^八ニ、法式ヲ出セドモ、紙馬錢經オヨビ三種ノ団子等ノコトヲ省ク。マタ、下卷^{三十三}ニ辨ジテ云。紙馬

錢ヲ辨ジ、マタ心經ヲ東西ノ柱ニカケカヘ、マタ供物ヲ桶中ニ投ジテ、土中ニ埋ム等ノコト、諸規ニ載セザル

処ナリ。タゞ、瑩規ニ念誦并ニ銀錢堂前ニ在テ焼トアレドモ、今ハ諸規ニ準ジテ之ヲ除クトアリ。自余ノ式

ハ、平常ノ三八念誦ト大概同ジ。

解^念切^{レバ}以^レ春風^ノ扇^ヲ野^ノ青帝^ノ司^レ方^ニ當^リ三^ノ覺^ノ皇^ノ解^ノ制^ノ之^ノ辰^ニ是^レ法^ノ歲^ノ周^ノ日^ニ九^ノ旬^ノ無^レ難^一衆^ノ咸^ニ安^ニ誦^ニ持^ニ万^ノ德^ノ洪^ノ名^ノ二^ノ回^ニ向^ニ合^ニ堂^ノ真^ノ宰^ノ仰^ニ

憑^ニ尊^ノ衆^ノ長^ノ声^ノ念^ノ十^ノ弘^ノ

土地^ノ上來^ニ念^ニ誦^ニ并^ニ用^ニ回^ニ向^ニ護^ニ持^ニ正^ノ法^ノ土地^ノ龍^ノ神^ノ伏^ニ願^ニ神^ノ光^ノ協^ニ贊^ニ發^ニ

揮^ニ有^ニ利^ノ之^ノ勲^ノ梵^ノ苑^ノ與^ニ隆^ニ永^ノ錫^ノ無^レ私^一之^ノ慶^ニ再^ニ憑^ニ尊^ノ衆^ノ念^ノ十^ノ方^ノ云^々了^テ

十五日。粥前方丈内人事粥罷上堂或ハ祝聖諷經了テ行礼知事頭首展礼ス初展ニ云伏喜法歲周円無^ニ諸^ノ難^ノ事^一此蓋和

尚法力應庇下情無^レ任^ニ感激^ノ之^ノ至^一住持ノ謝詞ニ云ク此者法歲周円皆謝^ニ某人^ノ等^ノ法力^ノ相^ノ資^ノ二^ノ不^レ任^ニ感激^ノ之^ノ至^一再展ニ

云即日孟春猶寒恭推堂頭和尚尊候起居万福ト住持僧堂ノ人事了テ出堂ノ後首座以下対礼三拜謝詞ニ云九旬相依三業不善惱乱大衆伏望慈悲衆寮ハ寮主寮首座已下触礼三拜謝詞堂中ノ法ト同ジ。

禺中ニ、本尊上供アリ。斎罷、方丈ヨリ首座大衆ニ特爲スル茶アリ。

述曰。十五日ノ行式ハ、堂規ニ略セリ。今ハ、小規ニ依テ出ス。小規ニ十六、十七両日トモ斎罷庫司首座ノ茶アリテ、十八日各自行脚アレドモ、今時ハ多ク十六日行脚ナレバ、晡時ニ上方丈シテ告暇ノ拜アリ。

十六日。今朝各自行脚意ニ随フ。或ハ方処ニ依バ、十五日ニ起章スルコトアリ。国憲ナレバ妨ケナカルベシ。

コノ日職務交代ナリ。モシ人数不足ハ、別日ニ延フ。

作法左ノ如シ。先請首座法ハ、前資動旧知事頭首ヲ方丈ニ茶ニ会シ、住持資問シテ某首座退ヲ告グ。某人ヲ次補ニ請スベキヤト談ズ。ミナ允セバ、即請客侍者ニ命ジ、某人及某人ノ相知、某人ノ補職スベキ人ヲ請シ、再ビ点茶了テ住持慇懃ニ云ク。

某首座告退不_レ可_レ闕_レ人欲_下請_上某人充_下前堂首座_上且望_ス大衆同共礼請。幸希不_レ阻且以_二弘法_一爲_レ念。時ニ上首新首座三拜ト唱ヘテ、衆起テ礼請了テ、新首座直ニ住持ノ前ニ兩展三拜、一展ニ云ク。

新戒乍入叢林諸事生疎過蒙和尚差請下情無_レ任_二恐懼之至_一再展ニ云ク。伏惟和尚尊軀起居万福ト触礼三拜ス。知事頭首等ハ、亦住持ヲ賀シテ兩展三拜ス。一展ニ云ク。山門慶幸且喜新請首座已領慈旨下情無_レ任_二傾躍之至_一再展ニ寒暄ヲ叙シ、並ニ触礼如_レ前。

次ニ、新首座ト互ニ賀謝シ各触礼三拜、新首座謝詞ニ云ク。有_レ荷_二推揚_一不_レ勝_二慚慄_一。知事頭首ノ賀詞ニ云ク。荷_レ衆_二當_レ才_一伏惟歡慶。椅子ノ当面ニ軋ジテ喫湯セシム。次ニ鳴鐘集衆入堂立定ス。維那聖僧前ニ燒香シ、密ニ住持ニ稟メ巡堂一通。問訊了テ打槌一下シテ云ク。

白_二大衆_一前首座告退此務不_レ可_レ闕_レ人奉堂頭和尚慈旨令_下請_上某上座充_下首座_上謹白。再一下ス。知事頭首前資動旧同ク共ニ進前シテ勸請ス。受訖テ兩展三拜謝詞同_レ前。

時ニ維那打槌一下シテ云ク。

今已請_レ得_レ某人充_下首座_上訖謹白。亦打槌一下ス。和客首座ヲ引テ、聖僧前ニ大展三礼。収_レ具旧首座ノ前ニテ触礼三拜大衆答拜ス。知客引テ巡堂シテ出ヅ。維那白_二云ク_一。大衆送_下首座_上入寮ト。住持以下、送テ首座寮ニ至ル。住持主位ニ依テ立ツ。新首座住持ノ前ニ兩展三拜シテ、住持歸方丈送テ出ヅ。次ニ歸位シ、知事ト触礼三拜。次ニ旧首座ト大衆ニ触礼三拜シ送り出ヅ。

述曰。請知事頭首法。堂規三卷_丁ナリ。全ク禪規二卷

ハ請知事章ニ依レリ。マタ同規三卷^{丁五}ニ下知事章アリ。五卷^{丁三}ニ下頭首章見ユ。スベテ堂規三卷^{丁六}ニ略出ス。近クハ小規中卷^{丁四}ニ委出ス。マタ、方丈ヨリ知事頭首ニ、同時ニ謝煎点アリ。勝式ハ堂規三卷^{丁七}ニ出、コノ日ヨリ知客且過ヲ開キ、方来ヲ接待ス。且過ノ進退、掛搭ノ威儀トモニ禅規一卷^{丁四}ニ列出ス。

二十日。永平祖師帰朝シ、コノ日ニ法衣ノ養ヲ祝セラル、ト云伝フ。

二月

初一日。朔日ヨリ十五日マデ、晴時ニ遺教經ヲ誦誦ス。經了テ舍利礼三返ヨムハ、教苑清規ニ出。禅林ノ清規ニハ見エズ。

十一日。涅槃會ノ製疏ヲ請ス。堂司紙ヲ袖ニシ、行者ヲツレテ書記寮ニ到リ、触礼一拜。陳語シテ云ク。今月十五日値、仏涅槃辰^ニ煩^ル製^ス疏^ヲト。書記製シ畢テ、草稿ヲモチテ先ヅ住持ニ呈シ、親ラ堂司ニ送り、触礼一拜シテ先礼ニ答フ。

述曰。堂規下卷^{丁四}ニ云。兼日衆中小山中諸人各出ニ七紋錢^一供^ニ養涅槃^ニ仏^ニ礼^上点^レ之^ヲ自^ニ庫^下一^ニ勸^レ之^ヲ調^ニ供具^ニ是永平舊儀也トアレバ、堂小二規トモニ率錢シテ供養ヲ営ム。

十四日。粥罷知殿涅槃像ヲ殿上ニカケ、如法ニ敷陳ス。

斎罷印疏ノ式ヲ請ス。維那行者ヲツレテ箱袱爐香ヲ棒ゲシメ、上方丈シテ焼香触礼一拜白メ云ク。来日遇仏涅槃展請和尚僉疏ト。住持接取シテ焼香シ、三宝印ヲトリテ自ラ南閻浮提乃至。遺教比丘某ト疏尾ノ遺教比丘某謹疏ト、オヨビ可漏ノ全文トノ三処ニ押ス。僉シ訖テ、維那問訊シテ退ク。

十五日。粥罷仏涅槃會上堂。モシ上堂ナケレバ欽鐘集衆シテ諷經ス。イハユル転供拈香出班九拜宣疏誦經回向ナリ。

述曰。伝供出班等ノ行式ハ、堂規四卷^{丁十一} 仏誕生會行法ノ下委悉ナリ。伝供ノ式ニ云。維那大悲咒ヲ微音ニ拈ス。大衆和シテ微音ニ念ズ。磬ヲ打セズ。樂奏ハ、初ニ銅鑼一聲、次ニ鳴鼓二声、次ニ鳴鉢二声、マタ銅鑼ニカヘル。住持九拜了テ収具ノ時ヤムトアリ。小規中卷^{丁十一} 兩序ノ遞代ナシ。云ク。進前上湯進食請客侍者通上候^下焼香侍者捧置^レ几^上 歸位三拜再進前下觀点茶候侍者供畢歸位三拜収^ニ座具^ニ立^トアリ。兩規ヲ審ニスルニ、堂規ハ堂規ト敕規トニヨレリ。堂規涅槃會下ニ云ク。衆集主人焼香大衆行列伝供維那挙大悲呪或鳴法鼓上知事每供薰香棒伝主人又薰香令供養云々。マタ敕規聖節ノ章ニ云。集^レ衆^到ニ殿上^ニ向^レ仏^排立^住持上茶湯上首知事通上云々。然ルニ、敕規達磨忌章ニハ、通

代ノコトナシ。請客侍者供通ストアリ。成道涅槃モマ
タ請客侍者通上ス。小規ノヨル処ナリ。堂規考訂六卷
九ニ委ク弁出ス。

三月

初一日。閉炉僧堂諸寮ミナ蓋炉ス。一衆帽ヲ除キ、叉手
ヲ露ス。礼賀常ノ朔望ト同ジ。

初三日。粥罷上已礼賀朔望ト同ジ。

二月末カ三月初、三月ノ節ニ入ヲ清明ノ節ト云。コノ日、
改火鎮防火燭ノ符ヲ書テ諸堂ニ貼ス。

述曰。堂規下卷^{丁ニ云}。二月末、若三月初、入三月

節日^{是日}ニ清明^{一書}ニ鎮防火燭^{札ニ行}ニ三宝印^一。日中諷經
今日^馬次誦消災呪一返押貼諸堂諸寮柱云々。堂規三卷

ハニ祖師真筆ノ文字ヲ写シテ、書様ヲ伝授セラリ。

今月ノ末、春際ノ暫到ヲ同時ニ掛搭セシム。

述曰。堂規下卷^{丁ニ云}。三月中免掛搭僧數及兩三輩棟

礼儀熟練人^一為ニ參頭^一先擬^ニ祠部新到書狀^一。若又帶^ニ土
縁六念及戒牒^一具書副^レ之。知客上方丈得^ニ免掛搭^一札子^一

及至云々。免掛搭者限四月一日以前是清規礼法也。堂規

三卷^{十四丁}新到大掛搭小掛搭ノ礼式ヲ審細ニ指揮セラ

ル。

四月

初一日。祖師安居卷云。四月一日ヨリハ比丘僧アリ。キ

セズ諸方ノ接待ヲヨビ諸寺ノ旦過ミナ門ヲ領セリ。シカ
アレバ、四月一日ヨリハ雲衲ミナ寺院ニ安居セリ。菴裡
ニ掛搭セリト云々。

述曰。敕規ニ初一日旦過ヲ鎖ストアリ。堂規ニモ四月

朔日閉^ニ旦過^ニ不^レ接^ニ客僧^一。然而近來儀仏生会以前隨^ニ

其人品^一免^レ之是略掛搭也。略掛搭儀者云々。次ニ掛搭

狀ノ書様出^ニ堂規三卷^{丁ニ云}。平僧ト長老ト尊者トノ掛
搭狀ヲ指南セラル。今時、夏冬ノ首座并結夏ノ衆僧、

四月ト十月ト兩月ノ朔日二日ニ入寺ノ式ヲ行フコト、

本朝吾曹洞下ノ宗規トナレリ。古規ニナシトイヘドモ、

今引トコロノ安居卷ニ準ズレバ、安居ノハジメナレバ
行式アルモ妨ケナカルベシ。

初三日。コノ日カナラズ夏衆戒臘牌ノ草稿ヲ出ス。名テ

草單ト云フ。戒臘ノ次第ヲ正スベシ。

述曰。堂規三卷^{丁ニ云}。草單法円鏡法入寮次資牌ナドノ図

説出。戒臘法考訂四卷^{ハニ云}。小規中卷^{丁ニ云}。初三
日出草單粥罷堂司掛^ニ草單於衆寮^一前草單已定堂司依^ニ

戒臘^一寫^ニ榜嚴会^一図念誦巡堂^一図被位^一図戒臘牌^一具

草本先呈首座次呈^ニ住持^一看定^{ハニ云}。方寫^ニ諸図^一正本再呈

云々。図牌ハ下卷^{十八丁}ニ見ユ。

初七日。粥時維那徧槌ノ後又一下云ク。

謹白^ニ大衆^一粥罷普請採^レ花莊嚴仏龕諸寮清衆齊聞^ニ鐘鼓声^一

集^ス殿前^ス謹白。堂内堂外ヲ巡堂一匝シ、当面ニ問訊シテ
 歸位、粥罷ニ諸寮ノ鼓板一時ニ一會大開靜ト同ジ。

述曰。仏龜莊嚴ノ普請ニ、磬規ハ魚版鼓ミナ三會トアレドモ、支那ノ諸清規ハ、普請ノ時ハイヅレモ一通ナリ。禪規ニ、普請鼓打一会更不^ニ転通トアルニテ知ルベシ。小規ニ、粥罷鳴鼓一会普^ニ請大衆トアリ。

初八日。粥罷仏生会上堂。モシ上堂ナケレバ、鳴鐘集衆シテ諷經ス。

述曰。堂規四卷^{十一}行法ノ次第涅槃會ト同ジ。宣疏畢テ、浴仏ノ偈ヲ挙称ストアリテ偈文見ヘズ。今時用ル処ノ偈文ハ、磬規三卷^{十二}ニアリ。マタ幻規^{三十三}小規中卷^{十六}ト二規一同ニシテ、磬規ノ偈トコトナリ。

稽首大聖薄伽梵。天上天下而足尊。我等今以功德水。灌浴如来淨法身。^規

我今灌浴諸如来。淨智莊嚴功德聚。五濁衆生令離苦。同証如来淨法身。^{幻規}

述曰。備規、敕規トモニ二^三唱浴仏偈行道トアリテ、大衆行道シナガラ一人ツバ仏前に到リテ浴仏ス。磬規ハ、知事ノ上首カ殿主ヘ杓ヲ渡シテ浴仏シ、大衆ハ諷經了テ後随意浴仏ストアリテ略シスキタリ。小規ニモ、挙第一句大衆合掌同和緩々行道住持進前右手執^レ杓浴像三次探拊次從^ニ上首^一次第兩々對進灌浴行道一匝之間

唱^レ偈^三遍トアリテ備敕ト同ジ。疏文ハ磬規三卷^{十三}堂規四卷^{十七}製疏ノ法モ同処ニ出。

十一日。首座ヨリ堂頭ニ特為スル点茶置食。^{正月十一日}

十二日。夏中ノ楞嚴頭ハ、音声ノヨロシキ人ヲ択テ、粥罷ニ請シテ茶ヲ喫セシメ、茶畢テ引テ方丈庫司ニ詣リテ、

人事ミナ請シテ点心ス。維那光伴ナリ。

十三日。楞嚴會ヲ啓建ス。磬規ハ十五日啓建ナレドモ、結夏ノ日ハ事シケ、レバ、敕規幻規ニ例シテ、十三日ニ啓建ス。

述曰。堂規三卷^{四十四}法式并諷經ノ図出。小規中卷^{十七}ニ

法式ヲ挙グ。図ハ下卷^{二十一}勅修、備用ニ依テ出ストアリ。堂規考訂五卷^{十八}ニ云。楞嚴會ノ図ハ、備規勅規并

二十刹図ニ出テ審カナリ。磬規ハ、ソレヲコ、ロヘチガヘテ図シタリ。ヨロシカラズ。マタ、今時ニ維那ト

楞嚴頭ト咒ノ一段、三ノ段、五ノ段トモニタガヒニユキチガヒテ、祖堂土地ヘメクリテ焼香スルコト磬規

オヨビ諸清規ニ見ヘズ。マタ、イマゴロノ楞嚴會ノ花ニ、前半夏ハ草花、後半夏ハ木花トイフコト諸清規ニ

モ磬規ニモ見ヘズ。楞嚴經ノ檀法ニ、金銀銅木ノ十六蓮花ヲ供養ストアリ。コレヲ略シテ、草ト木トノ花ト

イフヤウニナレリ。草ト木トヲ前後ノ半夏ニワケテタツルコトハ、イヨイヨ拠ナシ。紙ニテ四色ノ蓮花ヲ十

六本ツクリテ供養スベシ。堂小二規行式大概同ジ。タ
バシ、鳴_ニ庫堂前大版_ニ三下スルトキ、住持跪爐スルト
ハ、小規ニ長出セリ。同規下卷_四丁_十攷証章云。備用楞
嚴會章云。古法放參後山門首誦經。真歇和尚住_ニ徑山_一
謂_下衆不_ニ專精_一則在_中粥罷_也。又云普回向偈、真歇和尚自
製。信知名行尊宿一挙四海一律也。旧説云。夏中楞嚴
會始_ニ於真歇_一了禪師_一。師始以下住_ニ明州補陀山_一僧行悉
病_ハ疫_ニ乃_ハ禱_ニ觀音大士_一。即感_レ夢依_レ教行法衆病平癒_ス矣。
云々 疏文ハ、瑩規三卷_六丁_十堂規四卷_九丁_二アリ。

十四日。參前ニ方丈小座湯アリ。

述曰。禪規ニ堂頭煎点トアルガ、古ノ小座湯ナリ。侍
者夜參或粥前稟_ニ復堂頭_一來日或齋後合_下為_ニ某人_一特為
煎点_トアリ。堂規三卷_三丁_二、照牌図并行式ヲ出セリ。
但シ、三座ノ図ト一座ノ図ト別出セリ。今時様ニ四出
頭ト称スルノ行式ハ、元コノ小座湯ノ第一座ハ二出、
第二座ハ四出、第三座ハ六出トアルノ変式ナルベシ。
モト小座湯ハ、住持ヨリ山門ノ老宿又新旧ノ両序或ハ
山門ニ功アル弁事ナドヲ請スル。故ニ一座ニナラネバ
二座三座ニモ行ズ。敕規備規委シ。小規中卷_七式ヲ出
シ、下卷_{廿六}ニ図牌ヲ出ス。図式トモニ堂規ト全同ナ
リ。

晡時。土地堂念誦序文并行式。祖師ノ安居卷ニ出。竊以_レ

薰風扇_レ野炎帝司_レ方_下当法王禁足之辰是釈氏護生之日躬哀_ニ
大衆_一肅詣_ニ靈祠_一誦_ニ持万德洪名_一回_ニ向合堂_一真宰_ニ所_レ祈加
護得_レ遂_ニ安居_一仰憑尊衆長声念_ニ清淨法_一回向_ニ解冬_一
十五日。粥前方丈内人事粥罷上堂。
身云々

述曰。古規ハ五參上堂ナレドモ、今時ノ小叢林ハ、多
ク四月十月ノ十五日ニコノ法令ヲ行ズ。瑩規ニハ、上
堂ノ行式見ヘズ。イマ堂小二規ニ出タル式ヲ校合スル
ニ、少ク差異アリ。堂規ハ鳴鐘一會ニ、先ヅ諸寮ノ衆
法堂ニ上ルニ、會ニ僧堂ノ衆上ル。コノトキ焼香侍者
モ上テ、法座ノ左ニ立テ大衆ヲ集ヤ否ヲ窺フトアリ。
マタ、古録ニハ見ヘズ。爾レドモ、打靜ノ義ナレバ法
會ニ行フテ益アリトテ、維那ノ白槌アリ。但シ、空座
問訊ナシ。小規ハ第一會ヲ転疊スルヲ聞テ、先ヅ頭首
法堂ニ上リ、第二會ニ知事行者ヲ領シテ法堂ニ上ル。
トモニ空座問訊アリ。問訊ノ証ヲ引ク。
下卷終丁ニ、空座

焼香侍者ハ、鳴鼓ノ初ヨリ法堂ノ偏門ヨリ入テ、法座
ノ左角ニ往テ西南ニ面シテ、衆ノ集ルヲ候フトアリ。
マタ常ノ上堂ニ、白槌ノコトナシ。ソノ余ノ式ハ、両
規トモ同ズ。

明様ニ、上堂三請トテ前晚一度、当日ニ兩度、両序方
丈ニ上テ三拜ス。コレ諸清規ニ見ヘズ。古規ハ五參ト
テ、一月六度定ル上堂アリ。ソノ外三仏會、冬至、年

旦ノ上堂モ、ミナ住持ヨリ大衆開示ノ為ナリ。兩序ガ三度出テ請スベキ様ナシ。禪規ニ施主アル法事上堂ノ式ハ、三請ス。表ニ重法ニ也トテ、法ヲ施主ニ重ンシサセシガ為ト見ヘタリ。堂規考訂六卷^{丁二}ニ委ク弁ズ。

安居卷ニ云ク。十五日ノ陞座罷住持人法座ヨリオリテ階ノマヘニタツ。拜席ノ北頭ヲフミテ、面南シテタツ。知事近前シテ兩展三礼ス。一展ニ云。此際安居禁足獲^レ奉^ニ巾瓶^ニ惟伏^テ和尚法力資持^ニ願無難事^一。又一展叙^ニ寒暄^ニ觸^ニ礼三拜^一。住持人念此者多幸得^レ同^ニ安居^一亦冀^ニ某人等法力相資^ニ無^ニ諸難事^一首座大衆同此式也ト。

述曰。堂規考訂五卷^{丁三}ハ、未校合ノ本ニ依テ弁アリ。

今ハ近刻ノ正本ニ依ル。安居卷ハ略ナリ。知事ノ時モ、頭首ノ時モ、上首一人挿香シ、退テ一同ニ兩展三拜ナリ。叙寒暄トハ、結夏ニハ即辰孟夏漸熱法王結制之辰伏惟堂頭和尚法候動止万福下情不勝感激之至ト。瑩規三卷^{丁二}ハ、安居卷ニヨリテ再展ノ致語^ニ了^一、住持ノ答語ナリ。小規中卷^{丁八}ニ、住持ハ初展ノ致語^ニ答フト見ユ。兩展三拜ノコトハ、堂規考訂五卷^{丁四}ニ云。禪規ニ云ク。知事近前兩展三拜下ノ註ニ云ク。一展ニ云。此際安居ト云々。又一展叙^ニ寒暄^ニ觸^ニ礼三拜ト^一。コレガ兩展三拜ノ清規ニ出タル根本ナリ。兩展ハ、坐具ヲ展ルバカリ。ユヘニ、兩展ト云フ。三拜ハ後ノ觸^ニ礼三拜

ナリトアリテ、坐具ヲ展ントスルトキ、住持ガ約免スルユヘニ、タゞ兩展ノ三拜ナシ。第三度ハ、直ニノヘズ。押付テ拜スルガ觸^ニ礼三拜ナリ。

住持僧堂人事畢テ出堂ノ後、堂中ハ首座以下。寮中ハ寮主以下三拜シテ云ク。此際幸同安居恐三業不善且望慈悲。時至テ、住持巡察ス。住持寮舎ヲ点檢シ起ニ臨テ、寮主近前兩展三拜陳謝ノ詞ニ云ク。伏蒙^ニ和尚法駕訪臨^ニ下情不勝感激之至^一。次ニ時暄ヲ序ス。

諸寮巡了テ、大衆皆加巡シ、法堂ニ到テ住持ニ問訊シテ別ル。

述曰。禪規二卷^{丁七}ニ巡察章アリ。堂規三卷^{丁四}四節巡察法アリ。法堂ニ到テ、住持ニ問訊シテ別ル、ヲ、今時大問訊ト云。瑩規三卷^{丁二}ニ云。主人在^ニ法堂^ニ待^ニ大衆^一。天童ノ古儀ナリトアリ。小規下卷^{丁三}引^ニ僧祇^ニ云。世尊以^ニ五事^一故五日一按^ニ行僧房^一云々。故禪苑每

月且巡察又似^ニ余時勤^一之ト。又云。至^ニ備用敕修^一以為四節報礼。安居卷禪苑及備用勅修其法大概相同云々。堂規考訂五卷^{丁六}巡察法ヲ考訂セラル、ニ云ク。今比寮々ノ版ヲ方丈行者ガ打ハ、非ナリ。コレハ方丈來臨ユヘ、寮ノ衆ニ聚レトテ、寮主ガ告ル鳴版ユヘ、ソノ寮々ノ僧打ベシトナリ。

斎罷方丈ヨリ首座大衆ニ特為スル茶アリ。呈傍并行礼

堂規三卷^{三十}云云。首座下座シ住持前ニ到テ、謝茶兩展三礼。初展云。茲者特蒙^三煎点^三、下情不^レ勝^三感激之至^一。再展云。即日孟夏漸熱、恭惟堂頭和尚尊候起居多福、ト退テ触礼三拜。

十六日。粥罷住持挙話。<sup>五則法座ノ次第
今時ニ隨順ス。</sup>

斎罷庫司ヨリ首座大衆ニ特為スル茶アリ。<sup>前ニ同
ジ。</sup>

十七日。粥罷首座挙話。

五月

初五日。粥罷礼賀アリ。菖蒲茶ヲ点ズルコト、敕規ニ見ユ。天氣ヲ候フテ、僧堂内ノ暖簾ヲ卸シテ、涼簾ヲ掛ク。堂司ノ所管ナリ。

六月

初一日。コノ日ヲ半夏ト称ス。敕規ニ首座免^レ鳴^三坐^一禪版^一トアリ。堂規二卷^九云。朔日ヨリ打版止テ、九月朔日ヨリ打版ス。南北ノ国ニヨリ、六月マタ冷氣アル所ハ考ヘ、七朔ヨリ止テヨシ。

藏經アル寺ハ、コノ日ノ中ニ晒藏ス。知藏經帙ヲ僧數ニ配分シ、一日或ハ兩日三日ニモ好晴ヲ考ヘ晒ス。普請ノ鼓一通、大衆五条手巾絆縛シテ、藏殿ニ集ル。最初ト末後ハ、住持或ハ鑑寺藏殿ノ本尊ニ湯菓茶洗米ヲ献ジ、諷經シテ金文迎送ノ恭敬ヲツクス。普回向了テ大衆三拜、マタ三伏ニ入テ、寺内ミナ晒薦ス。瑩堂小ノ三規トモニ、

コノ月ニアリ。瑩規ニハ、維那白槌巡堂打鼓等ノコトミヘタリ。堂規ハ、普請ノ鼓一通、諸寮ミナ薦ヲ晒ストアリ。瑩規三卷^{三十}云。自^三六月一日^一淋汗隔日沐浴也。或^六度沐浴中間一沐浴。又除^三施主臨時沐浴^一也。又自^三六月一日^一打扇云々。堂規三卷^{四十}打扇法ヲ指揮ス。

七月

初一日。飯後ハ公界ノ看經ナリ。前日ヨリ殿前ニ看經ノ榜ヲ掲グ。看經大榜ノ文ハ、堂規四卷^{三十}出、維那化簿ヲ作りテ住持及大衆ニ看經ヲ請ス。仏殿ニ殿鐘三會集衆。經咒ハ住持ノ意ニ随フ。次ニ、化簿ノ經咒ハ、各自ノ意案ナリ。今晚ヨリ毎日晡時ニ施食法ヲ修ス。

述曰。化簿ノ作り様ハ、堂規四卷^{四十}ニ指南ス。同規五卷^六云。施食ノ法ハ諸清規ニ見ヘズ。唯瑩規三卷^{三十}ニタル式如法ナリ。シカレドモ、損闕前後差異ヲシ、余密部ニ依テ考正シ、甘露門ヲ述シ別行印版シテ補スト。有ガ云ク。梁武帝誌公ニ勅シテ撰セラレシ水陸齋ノ法ハ、陳隋ノ間ニ亡フ。今時禪宗ニテ修行スル法ハ、一向ニ訣モナキ後人ノ妄作ナリ。不空所訳ノ施食法、尤甚秘ノ法トスト校正スルニ、堂規ニ密部ニ依ルトコロノ所伝ノ法ト異ナルコトナシ。

七夕。朔望ノ礼賀ト同ジ。

十一日。今時自恣フルマイト云ハ、堂頭ヨリ首座ニ特為

スル点茶置食ナリ。或ハ十日ニ行ズルコトモアリ。正月ト同ジ。

十三日。維那楞嚴頭ヲ引テ、方丈ニ詣シテ人事シ、請シテ点心セシムル等ノコト四月ト同ジ。

粥罷ニ楞嚴会ヲ満散ス。疏文ハ堂規四卷^{丁三十二}見ユ。宣

疏了テ楞嚴頭咒尾ノ末章ノ阿難是仏頂光聚ヲ拳唱シ、次

ニ摩訶般若ヲ拳シ了テ維那回向ス文、啓建ト同ジ。

斎罷衆寮諷經アリ。寮主衆寮ニ鳴鐘集衆両班常ノ如シ。

観音諷經大悲咒消災咒ニテ回向ス。

十四日。晴時土地堂念誦解冬ト同ジ。念誦ノ文瑩規三卷^{三十二}出云ク。

切以金風扇^レ野白帝司^レ方当^ニ覺皇解制之時^一是法藏周円之日云云。余文ハ解冬ト同ジ。

念誦罷庫司ヨリ首座大衆ニ特為スル湯アリ。呈勝行札并解冬ト同ジ。但シ再展ノ致語ニ云ク。

即日孟秋猶熱云云。

大施餓鬼ハ、多クソノ寺ノ旧例ニ依テ、十三四五ノ間ニ勤ム。

述曰。小規中卷^{二十}ニハ、十五日ノ斎罷ニ施餓鬼法ヲ行ズ。供物等ノ調度ヲ指南ス。同規下卷^{二十二}大小膳ノ書様并行法回向スベテ委出ス。堂規三卷^{四十}ニ行法ヲ出シ、同卷^{四十七}ニ、大檀那施食回向ト山門施食回向ト

ヲ別出ス。瑩規下卷^{五十二}ニハ、大膳四流小膳二十五流

皆維那所管也トアリ。又鉢盛^ハ水加^ニ溝菽^トアレバ、

堂規モ洒水枝ハ溝菽ヲ束テ用フト云ヒ、マタ二十五本

ノ小膳ヲ作テ架上ニタテ、二十五有薦拔ノ意ヲ表スト

アリ。小規ノ夾註ニモ、調^ニ度白紙^ハ大膳四流五色小膳

二十五流^一。又大膳書^ハ宝楼閣^ハ随心陀羅尼^ハ小膳書^ハ施食文^ト見ヘタリ。

十六日。各自随意ニ行脚ス。今日知事頭首ヲ請シテ、職務交代ノ式アリ。解冬ノトコロニ云ガ如シ。知客旦過ヲ開キ、方来ヲ接待ス。

十七日。天童淨祖宿忌特為獻湯行道諷經。

十八日。天童淨祖獻供^ハ伝供出班等住持^ハ指揮ニヨル。

八月

十五日。コノ夜、月前ニ六供具洗米ヲ備ヘ、鳴鐘集衆諷經。次ニ方丈ニ上テ礼賀獻茶ノ行礼。朔望ト同ジ。

二十六日。堂司衆財ヲ率シ、庫司ニ送テ祖忌ノ供養ヲ營ミ、及ビ製疏等ヲ請スルコト涅槃会ト同ジ。知殿侍真ハ、如法ニ法堂ヲ莊嚴シ、祭筵ノ炬餅香凡ヲ設ク。

迎真ノ法ハ、堂司行者衆ニ報ジテ迎真牌ヲ掛ケ、鳴鐘集衆シテ祖堂ニ上リテ排立ス。住持進デ焼香退テ三拜ス。

行者鳴鉦三会ス。住持牌ヲ奉ジテ南面シテ立ツ。行者先行ス。次ニ住持、次ニ侍者、次ニ大衆オノオノ法堂ニ到

テ排立ス。住持牌ヲ奉ジテ、階前ニ到ル。侍真迎接シテ、座上ニ安ズ。行者鳴鈸三会ス。住持焼香シ^レ位深揖ス。大衆同展三拝ス。住持進デ茶菓湯ヲ献ジ、退テ三拝ス。行者鳴磬シ、維那大悲呪ヲ挙ス。回向ニ云。

上來諷經功德奉為日域高祖永平開山大和尚上酬慈蔭。

二十七日。晡時堂司行者衆ニ報ジテ諷經牌ヲ掛。鳴鐘集衆兩序分班ス。住持人ヲ候テ、方丈行者鳴鼓一会特為湯ヲ献ズ。住持進前上香シ、退テ大展三拝シテ、坐具ヲヲサメズ。進デ上香請客侍者湯器ヲ通上ス。住持香ニ薰ジテ焼香、侍者ニ付ス。侍者捧テ凡上ニ置ク。再ビ進デ拝席ト香卓トノ間ニ到テ、深揖シテ勸湯シ位ニ歸リ、三拝シテ坐具ヲ收ムトキ、行者鳴鼓三下ス。住持再ビ進デ上香行者大磬ヲ鳴ス。^{安樂行品}維那^{或壽量品}挙經ス。行道了テ回向^{月分ノ}処ニ出。

述曰。三仏会ハ、モトヨリ宿忌ナシ。敕規ノ達磨忌章ニ、鳴鼓献特為湯ノ式出。同規ノ抄ニ云。特為湯ハ、法語ヨリ先ニ献ズ。別ニ九拜アリ。帝師涅槃ニ特為茶湯ハナシ。三仏ニナキホドニ、ココニモナシ。仏同様ニスルニヨリテナリト。又云ク。達磨百丈忌ニハ、宿ニ特為湯、晨ニ特為茶アリト。敕校備磬大鑿東漸等ノ諸清規ミナ三仏会ニハ、特為茶湯ノ式ナシ。

二十八日ノ早ニ、高祖献粥諷經茶湯ヲ供ス。大悲呪ニテ

回向ス。

述曰。二祖三仏共ニ献粥ノ儀、支那ノ清規ニモ見ズ。洞家ハ古来ヨリ行フ懇懃敬重ノ儀ナリ。

禺中高祖上供云々下齋畢テ、三拝シテ坐具ヲ收ム。行者鳴鼓一会シテ、特為茶ヲ献ズ。^{湯ノ礼ト}献ジ畢テ、鳴鼓

三下^{自余ハ涅槃會ノ式ト同ジ。}

述曰。伝供十八拜トハ、モト伝供九拜ノ後ニ、特為茶ノ式ノ九拜ヲ行ズ。故ニ十八拜トナル。洞下今ゴロ、二祖三仏忌ノ供養式ハミナ伝供十八拜ト一概ニ覺ユルハ、大ニ誤レリ。三仏ニハ、特為茶ナシ、故ニタゞ九拜ナリ。特為トハ、衆アル中ヨリヌキ出シテ、一人ノ為ニ設ルヲ云フ。マタ、今様ニ知殿ガ打磬スルハ、大ニ非ナリ。知殿ハ、六頭首ノ一人ニテ、重職ニテ挙經ノ磬ヲ打様ナル職ニアラズ。敕規ニ、直殿ガ大磬ヲ打トアルハ、知殿ニハアラズ。直堂ノ類ニテ一日アテ仏殿ヲ看守ノ行者ナリ。維那挙經ノ磬ハ、堂司行者ノ定職ナリ。祖忌ノ行式ハ、小規中卷^{二十四}經單ハ下卷^{二十五}ニ出。堂規四卷^{十四}ニ行法次第アリ。疏文ハ同卷^{二十五}ニ出ツ。

晡時送真諷經行者送真牌ヲ掛ケ、鳴鐘集衆シテ真容及ビ尊牌ヲ祖堂ニ送ル。^{迎真ノ礼ト同。}

九月

初一日。打版ナリ。南北ノ国ニテ冷氣速ク到ル所ハ、八朔モヨシ。敕規六卷^{二十}首座鳴ニ坐禪板ニ堂司提調^糊ニ僧堂窓^下ニ涼簾^上ニ暖簾^トアリ。小規モコレニ依ル。堂規ハタゞ時候ヲ考フトアリ。

初九日。重陽ノ礼賀アリ。朔望ト同ジ。

今月ノ末、一時ニ秋際ノ新到ヲシテ、掛搭法ヲ行セシムルコト三月ト同ジ。

十月

初一日。開炉粥後僧堂礼賀ノ時、住持ノ入堂前ニ維那堂行ニ命ジ炉ニ火ヲ活シ、侍聖聖僧前ニ花炉燭ヲ備フ。住持入堂シ法語唱了テ焼香礼拝。礼賀巡堂出堂ノ後、大衆方丈ニ再上テ開炉ノ祝賀ス。コノ日ヨリ方丈掛搭ヲ止メ、旦過ヲ鎖ス。堂司アラカジメ大衆ノ戒臘簿ヲ作り、堂行ヲシテ首座オヨビ住持ニ看定セシム。

初二日。冬会ノ首座多クコノ日ニ入寺スルコト、本朝曹洞ノ宗規ナリ。

述曰。安居卷ニハ、梵網經中ニ冬安居アレドモ、ソノ法ツタワレズ。九夏安居ノ法ノミツタワレリ。正伝マノアタリ五十一世ナリトノ玉フ。然レバ上代仏祖ノ席ハ九夏一臘ニシテ、一年ニ臘ヲ終ト云コトヲ聞ズ。タゞ二百年來冬安居モ、マタ公ノ掟規トナレリ。

初三日。粥罷堂司草單ヲ出ス。草單スデニ定テ戒臘ニ依

テ諸図牌ヲ写シ、草單ヲ首座住持ニ呈シテ看定セシム。堂司ノ図張スデニ定ツテ、寮元戒ニ依テ諸図牌ヲ排ス。マタ、見合セテ謝掛搭ノ式リ四月ト同ジ。

初五日。達磨忌八月ノ祖師忌ト同ジ。疏文ハ、瑩規三卷四十堂規四卷^{廿一}ニ出。

十一日。今時罷參齋ト云ルハ、首座ヨリ堂頭ニ特為スル点茶置食ナリ。或ハ十日ニモ行ズ。^{四月ト同ジ。}

十四日。參前小座湯拝請行礼并ニ解冬ニ同ズ。

晡時土地堂念誦解冬ト同ジ。小規中卷^{二十}念誦云。切以北風扇^レ野玄帝司^ル方当法王禁足之辰是釈氏護生之日躬夏^ニ大衆^一肅詣^ニ靈祠^ニ誦^ニ持^ニ万德洪名^ニ回^ニ向^ニ合堂^ニ真宰^ニ所^レ祈加護得^レ遂^ニ安居^ニ仰憑尊衆長声念^ト云々^ト回向^ト交^ニ解冬^ト十五日。粥前方丈内人事粥罷巡察并ニ陞座罷知事等人事致語スベテ結夏ニ同ス。但シ再展ノ陳語云。即辰孟冬漸寒云々。

十一月

冬至前一日參前方丈小座湯。

晡時土地堂念誦解冬ト同ジ。小規中卷^{二十}念誦云。切以時臨^ニ垂歲^一節屆^ニ書雲^ニ當^ニ三陽來復之辰^ニ乃万彙發生始^ト恭哀^ニ大衆^一肅詣^ニ靈祠^ニ誦^ニ持^ニ万德洪名^ニ回^ニ向^ニ合堂真宰^ニ仰憑大衆長声念^ト云々^ト回向^ト交^ニ解冬^ト。

至日粥前方丈内人事。粥罷上堂了テ人事知事。頭首ノ展

礼初展ニ云。此日丑歲一陽來復令辰恭伸賀驚之儀ト再展ニ云。即日仲冬嚴冬恭惟堂頭和尚尊候起居万福。

十二月

初一日。早晨ノ打版ヨリ八日ノ後夜マデ開静ナク大衆打坐ナリ。諷經早晚參モ免ズ。昏曉ノ鐘鼓齋鼓更点粥飯ノ鳴器ハ、常ト同ジ。タゞ坐禪ト諷經ニカ、ル法器鳴ラサズ。茶ハ僧堂ニテ行ズ。

初七日。齋後知殿等ノミ坐禪ヲ免シテ大殿洒掃シ、出山ノ像ヲ掛テ供具ヲ嚴浄ス。コノ夜初更ノ坐禪ヨリ一衆坐シテ明早ニ至ル。

述曰。今時臘八ト称シテ、七日夜ヲ期シテ打坐修証スルコト諸清規ニ見ヘズトイヘドモ、瑩規ニモ、七日夜九日夜山僧住裡一衆長坐ス發心以來四十余年於此兩夜ニ未ニ打眠トノ玉ヘバ、久シク動修セシコト、見ユ。ヨリテ堂規ニモ載ラル、ガ、今ハ瑩堂ノ二規ニ準ズ。

初八日。成道会ノ行法并疏文堂規四卷十三ニ出。

初九日。齋罷二祖ノ像ヲ掛ケ、花炉燭ヲ備ヘ、黄昏ヨリ打坐シ、後夜ニ大開静常ノ如シ。

十日。断臂会行法。堂規四卷十四疏文ハ同卷廿二ニ出。

十一日。歳末看經ノ勝出。瑩規三卷十四堂規四卷三十三ニ見ユ。看經簿法并序文同卷四十二ニアリ。看經ハ廿日ニ了ル。除夜施食ノ回向ニ加助ス。

除煤普請定ナシ。寺院ノ旧例ニ依ル。

擣糞普請堂規三卷十三

立春ハ、前夜ニ逐鬼ノ經アリ。仏前ヲ莊嚴シ、鳴鐘集衆普門品大悲咒消災咒ニテ回向ス。諷經ノ間ニ諸堂ハ攤鬼豆ヲ撒ジム。諷經罷方丈ニ礼茶行盡ノ次ニ豆ヲ行ク。余ハ朔望ト同ジ。

立春ノ早祝聖諷經了テ、礼賀朔望ト同ジ。住持アラカジメ立春大吉ノ符ヲ書シ、三宝印押テ祝聖諷經後消災呪ニテ加持シ、諸堂ニ貼ス符ノ図ハ、堂規三卷十四ニ祖筆ヲ模写セラル。祖筆ノ文字ハ、長一寸五六分、横一寸二三分寸五分ニテ、長ハ三倍七寸五分ニテヨシ。三宝印ハ、立ノ字ヨリ春ノ字ニカ、ル。

歳末。龍天疏并回向文。瑩規三卷十四ニアリ。堂規四卷三十三ニ出。同規三卷十四ニ云ク。山門頭アルヒハ衆寮ノ觀音前ニ就テ、三供洗米ヲ備ヘ、鳴鐘集衆兩班住持焼香維那宣疏并二年中衆僧課誦ノ經目ヲ逐一ニ挙シ、終ニ大悲消災ニテ回向了テ、紙馬紙錢ヲ焼テ淨地ニ埋ム。除夜事繁キ時ハ、前日ニ行フモヨロシカルベシ。

述曰。紙馬錢ヲ焼コト前ニ弁ズルガ如シ。考フルニ、堂規ハ龍天諷經アレバ土地堂念誦ヲ略スルニ似タリ。今別ニ行ハバ解冬ト同ジ。念誦ノ文小規中卷三十二ニ出、

左ノ如シ。

化工密運歳曆云。周威、忻ニ四序之安、ニ將レ啓ニ三陽之慶、ニ恭

哀大衆、爾詣靈祠、誦持万徳、洪名回向、合堂真宰、仰憑尊衆、長声

念、清浄云々。回向文解冬ト

念誦罷庫司ヨリ首座大衆ニ特為スル湯アリ。呈勝行礼并

ニ解冬ト同ジ。但シ致語ニ云。即日季冬極寒云云。

除夜今時ニ準ズルニ、大衆歳末ノ礼賀ナリ。朔望ト同ジ。

方丈ニ茶アリ侍者行礼常ノ如シ。

年分行法次第畢

執筆者紹介 I

①専攻②勤務先職名③主要論文著作（最近三年間）

加藤正俊 ①日本禅宗史②花園大学文学部助教授③八重葎の異

本について（『禅文化研究所紀要』一二号）、『泥龍窟語録』

（編集、一九八〇年）、愚鈍の系譜―洞宗令聰とその周辺―

（『明治の禅匠』所収、一九八一年）、中世の禅林から近世の

禅林へ―近世公案禅の成立まで―（『禅の美術』京都国立博

物館所収、一九八一年）、『遺傷の書』（毎日新聞社、一九八

一年）、白隠の生涯―その生い立ちと大悟―（『禅の世界と白

隠』所収、一九八二年）。

川口高風 ①江戸期曹洞宗学の研究②愛知学院大学文学部講師

③「光明藏三昧対校・解題」（大本山永平寺、一九八〇年）、

「龍靈瑞和尚研究」（安楽寺、一九八二年）、「白鳥鼎三和尚

研究」（第一書房、一九八二年）。

小林圓照 ①インド思想史・仏教学②花園大学文学部教授③禅

トリックスターとしての普化―比較禅学への一試論―（『比較

思想研究』六号）、金剛杵を執るインドラ神の周辺―リグ・

ヴェーダ理解のための基礎的考察―（『花園大学研究紀要』一

一号）、カピールの中（madhi）について（『印度学仏教学研究

究』二八卷二号）、靈照女における父と娘（『宗教研究』五五

卷三輯）、毒語心経解題（山田無文「白隠禅師毒語心経講話」

所収、一九八一年）。